

令和3年10月15日現在差替版

大学番号 1551 私立短大4

注1

設置年度 平成 30年度

計画の区分：大学の収容定員に係る学則変更

認可

山野美容芸術短期大学

美容総合学科

注2

収容定員に係る学則変更を行った大学の履行状況報告書

学校法人 山野学苑

令和3年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名

ジチョウ モーギカツヒコ
次長・茂木勝彦

電話番号

042-677-0111

（夜間）

042-677-0111

e-mail

somu@yamano.ac.jp

- （注） 1 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。
- 2 認可時から大学の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きに旧名称を記載してください。
- 例） ○○大学（旧名称：◇◇大学（平成◇◇年度より名称変更））

目次

	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
①美容総合学科国際美容コミュニケーション専攻	
2. 既設大学等の状況	6
3. 附帯事項等に対する履行状況等	7

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人 山野学苑

(2) 大 学 名

山野美容芸術短期大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒192-0396
東京都八王子市鍵水530

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(ヤマノアイコージェン) 山野愛子ジェーン (平成25年4月1日)	—	
学 長	(ヤマノアイコージェン) 山野愛子ジェーン (平成25年4月1日)	—	
学 部 長	(キムラ コウイチ) 木村 康一 (平成22年4月1日)	(カワサキ ミネコ) 河崎 峰子 (令和3年4月1日)	理由：前任者退任のため 年月日：令和3年4月1日 報告年度：(3)
学科長等	(ニシムラ テイム) 西村 貞武 (平成31年4月1日)	—	

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)

令和3年度に報告する内容 → (3)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。
- ・対象学部等が複数の場合には、それぞれ記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

調査対象学部等の 名称（学位）	設 置 時 の 計 画								定員変更年度	学生募集の停 止について	備 考		
	修業年限	入学定員		編入学定員		収容定員							
		変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後						
美容総合学科 短期大学士 （美容総合）	年 2		人 230	人 245		年次 人 0	人 0		人 460	人 490	年度 平成30		
対象年度 区 分	平成 3 0 年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度まで の平均入学定 員超過率			
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	— 人 — (—) [—]	— 人 — (—) [—]	— 人 — (—) [—]	— 人 — (—) [—]	245人 — 人 (—) [若干名]	— 人 — (—) [若干名]	245人 — 人 (—) [若干名]	— 人 — (—) [若干名]	0.64 倍	0.86 倍			
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	193 (—) [65]	— (—) [—]	173 (—) [3]	— (—) [—]					
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	192 (—) [64]	— (—) [—]	173 (—) [3]	— (—) [—]					
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	163 (—) [35]	— (—) [—]	172 (—) [3]	— (—) [—]					
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	155 (—) [35]	— (—) [—]	164 (—) [3]	— (—) [—]					
入学定員超過率 B／A	—		—		0.63		0.66						

調査対象学部等の 名称（学位）	設 置 時 の 計 画								定員変更年度	学生募集の停 止について	備 考
	修業年限	入学定員		編入学定員		収容定員					
		変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後				
美容総合学科 国際美容 コミュニケーション専攻 短期大学士 （国際美容）	年 2	人 30	人 45	年次 人 0	人 0	人 60	人 90	年度 平成30		令和3年度より 学科改組（専攻 課程の廃止）に より専攻課程で の学生募集停止	
対象年度 区 分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度まで の平均入学定 員超過率	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— 人 — (—) [—]	— 人 — (—) [—]	— 人 — (—) [—]	— 人 — (—) [若干名]	45人 — 人 (—) [若干名]	— 人 — (—) [—]	— 人 — (—) [—]	— 倍	— 倍		
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	82 (—) [63]	— (—) [—]	— (—) [—]				
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	81 (—) [62]	— (—) [—]	— (—) [—]				
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	53 (—) [34]	— (—) [—]	— (—) [—]				
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	51 (—) [34]	— (—) [—]	— (—) [—]				
入学定員超過率 B／A	—		—		1.13		—				

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科等、定員を定めている組織ごとに記入してください
(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位
(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表
を追加してください。
 - ・ 様式は、令和2年度定員変更の4年制の学科の場合ですが、変更年度・修業年限に合わせて
作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
 - ・ 認可後さらに定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を() 書きで
記入してください。
 - ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択すると
ともに、「備考」に「令和○年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
 - ・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行って
いる場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。 該当がない年には
「－」を記入してください。
 - ・ 転入学生は記入しないでください。
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「－」を記入して
ください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる
「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)
及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を
記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている
場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入して
ください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出して
ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・ 「平均入学定員超過率」には、標準修業年限における入学定員超過率の平均を記入してください。
なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
 - ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。
計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、
報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。

2 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	該当なし				学生募集停止学科数	-		平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	-	備 考		
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	入学定員超過率				平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	
					H30年度	R元年度	R2年度	R3年度				
該当なし	年	人	年次 人	人	倍	倍	倍	倍	倍	年度	年度	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
大 学 の 名 称	山 野 美 容 芸 術 短 期 大 学				学生募集停止学科数	3		平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備 考		
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	入学定員超過率				平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	
					H30年度	R元年度	R2年度	R3年度				
美容総合学科 美容デザイン専攻 エスティック専攻 国際美容 コミュニケーション専攻	年	人	年次 人	人					倍			令和3年度より学科 改組（専攻課程の廃 止）により専攻課程 での学生募集停止
	2	245	-	490	-	-	0.63	0.66	0.64	平成30	平成23	
	2	160	-	320	-	-	0.54	-	-	-	平成23	
	2	40	-	80	-	-	0.42	-	-	-	平成23	
	2	45	-	90	-	-	1.13	-	-	平成30	平成23	
大学全体	2	245	-	490	-	-	0.63	0.66	0.64	-	平成4	

- （注）・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（専攻科及び別科を除く）。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

3 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況		今後の の実施計画
認 可 時 (平成30年度)	美容総合学科国際美容コミュニケーション専攻の定員超過の是正に努めること。	留意事項	入学定員超過率に関し平成29年度は3.83倍であったが平成30年度は2.66倍とした。国際美容コミュニケーション専攻への入学希望者の偏りが大きく学科全体での調整となっている。	履行中	平成31年度入学者より、各専攻の定員数の見直しを行う。学科としての総定員数は変更せず、専攻毎の入学定員数の見直しを行うことで国際美容コミュニケーション専攻の定員超過の是正に努める。
設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年度)	平均入学定員超過率が3.24倍と著しく高い。同一学科には入学定員充足率が低い専攻があるが、専攻を単位として定員管理が適切に実施されていないため、学科内の入学定員の設定の見直しも検討しつつ、是正すること。 (美容総合学科国際美容コミュニケーション専攻)	指摘事項 (是正)	国際美容コミュニケーション専攻は、専攻の特色から国際性を伸ばすことを目的に、外国人留学生も多く受け入れており、入学者の偏りは、このことも一つの要因となっていると捉えております。 入学定員超過率の偏りについては、これからの社会情勢の変化を踏まえ、対症療法的な対策ではなく、慎重に議論を進めるべきであるとの考えから、様々な方向性での検討を重ね、議論に時間を要しました。 結果として、平成30年度の入学定員管理は学科全体での定員管理に留まり、国際美容コミュニケーション専攻の定員管理を適切に行うに至ることはできませんでした。 関係機関等の指導を受け、これらの指導を真摯に受け止め、改善策を早急に策定して推進する必要があるものと認識しています。 この状況に対しては、国際美容コミュニケーション専攻の教育上で支障が生じないことを確認するとともに、教育実施体制に遺漏のないよう万全を期しています。 国際美容コミュニケーション専攻の教員数においては、短期大学設置基準に定める教員数は計7名(入学定員45名、専任教員数3名(他に大学全体で4))となります。 令和元年の入学者数127名に対して短期大学設置基準に定める必要な教員数を見た場合、専任教員5名、他に大学全体の入学定員から必要となる専任教員数4名の計9名となります。 現状の本学国際美容コミュニケーション専攻の専任教員数は、15名(内10名教授)と設置基準の必要教員数より6名多く配置しており適切	履行中	令和2年度(2020)に向けては、関係機関等の指導を受け、これらの指導を真摯に受け止め、教員配置などの教育実施体制への配慮を維持しつつ、以下改善策を推進し、専攻を単位とした入学定員管理に努めます。 ・美容デザイン専攻、エステティック専攻の志願者の増加を目指し、広報改革を実行しています。具体的には、令和2年入学者対象の学生募集において、専攻の魅力のコンセプトを再設定し、学生募集広報に活かすとともに、オープンキャンパスの内容の改革、高校生とのコミュニケーションの改革を推進しており、現時点でオープンキャンパスの参加者が増加しており、定員充足に向けてさらなる募集強化を継続しています。 ・国際美容コミュニケーション専攻は、第2志望専攻の制度を有効活用することで、国際美容コミュニケーション専攻の入学定員数を上回ると想定される場合、第2志望の専攻に振り分けることで専攻毎の定員管理を強化します。 ・各専攻の入学者数のバランスを考慮し、国際美容コミュニケーション専攻の合格者数を絞り込む管理を行います。 令和3年度(2021)は、専攻統合の学科改組を行うことにより、定員管理の適正化も含めた抜本的な改革を推進します。 専攻統合の学科改組は、昨年10月より、2040年に向けた高等教育のグランドデザインの答申を踏まえて、具体的な施策を継続して検討して参りました。 本学の特色を最大限に生かした、建学の精神である美道を基軸とする教育改革を行うことを主眼とし、急速に変化する社会情勢に対応

			な指導が行える体制として います。 また、施設設備に関して は、本学は基より980名の収 容定員を有する短期大学で あったことから、校地・校 舎面積、教室設備など、支 障をきたすことの無い体制 を整えております。 現状の国際美容コミュニ ケーション専攻の入学定員 の超過率については、大き な課題と捉え、これまで、 学科内の入学定員の移行に よる設定の見直しを検討し てまいりました。 しかし、これからの急速な 社会情勢の変化に対応し、 将来的に持続可能な大学運 営を行っていくためには、 入学定員の是正のみなら ず、抜本的な改革が必要で あるという認識から、学長 室の将来構想会議等におい て、専門職大学への移行 や、新学科、新専攻の設 置、また同学科内の美容師 養成施設として厚生労働省 より指定を受けている専攻 の将来構想などを含めた、 様々な方向での検討を重ね てきました。 その結果、平成30年10 月に、令和3年度(2021) より専攻を統合(学科改組) し、抜本的な改革を図るこ とで、定員管理の体制を是 正していくことを基本方針 として決めました。前述の 会議には、外部有識者も加 えた上で、より具体的かつ 計画的な議論を、積極的に 進めております。		していくこと、教育の質の さらなる充実と向上を図る ことを念頭に置き、積極的 な検討を行っております。 現時点では学科改組の方向 性、理念体系の再構築、カ リキュラム構造の策定、カ リキュラム・科目設定の構 築に至っております。 社会人や留学生の受入れに についても体制を強化すべ く、多様なメディアの活用 や、サテライトキャンパス 等の運用についても、検討 を進めております。 改組計画は、令和元年内に 計画案を纏め令和2年度 (2020年度)に学科改組届出 を行う方針としておりま す。学科改組を行うことで 今後の社会情勢を踏まえた 抜本的な定員管理の適正化 を行います。
設置計画履行状況 調査時 (令和元年度)	平均入学定員超過率が 2.74倍と著しく高い。 入学者選抜の運用方法を 改善するとともに、 同一学科における専攻 単位の定員管理を適切 に実施すること。	指摘事項 (是正)	国際美容コミュニケーション専攻の入学者選抜におい ては、令和元年度の合格者 は136名に対し、令和2年度 は53名の合格者を選抜し83 名合格者数を減じた。選抜 者数は、コロナウィルス感 染症の影響等を考慮した が、入学に影響はあまりな く51名が入学し、入学定員 を6名超える結果となった。 令和2年度入試にあって は、学内の日本語別科から の学内進学希望者に対し、 進路指導に十分な時間をかけ 厳格な面談等を重ね、アド ミッション・ポリシーに 基づき、真に本専攻での学 びを理解した上で、進学へ の強い意志と学費負担が可 能である学生に出願させ、 選考を行った。 入学者選抜の運用では、 第2志望選考の制度も行ない	履行中	令和3年度(2021年度)入学 者より、専攻課程を廃止し 専攻統合の学科改組を行 い、美容総合学科として学 生募集を行うことから、入 学定員超過率及び、偏りの あった専攻単位の定員管理 については、改善すること ができる。 この計画に向け、令和2年 3月に現在の美容デザイン専 攻、エステティック専攻、 国際美容コミュニケーション専攻の「専攻課程の学生 募集の停止」報告を大学振 興課短期大学係まで提出し た。 令和3年度からは、本学の 特色を最大限に活かした、 建学の精神である「美道」 を基軸とする教育改革を行 い、合わせて教育の質のさ らなる充実と向上を図り、 魅力的かつ将来的に持続可

			入学者選考を行なったが、他の2専攻は、美容師、エステティックなどの資格制度に基づいた技術教育に重きを置いているカリキュラムであるため、第2志望での選考を希望する学生が少なく、結果として国際美容コミュニケーション専攻への受験者の偏りを改善することはできなかった。	能な学科としていく計画である。 令和3年度の学生募集にあっては、コロナウィルス感染症拡大により、思うように募集活動を実施できていない状況があるが、この状況を機に、実技の実習授業を含めた全授業において、同時双方向の遠隔授業実施の取り組みをいち早く導入・実施し、工夫と研鑽を重ねている状況にある。これらノウハウも最大限に活用し、変化する社会情勢に対応していくこととした。
設置計画履行状況調査 時 (令和元年度)	多くの退学者等を出しており、そのほとんどが留学生で、就学意欲の低下による退学となっていることから、入学者選抜時に、アドミッション・ポリシーに基づき、本専攻の教育内容に対する関心や意欲を適切に確認し、入学者選抜の有効性の向上に努めること。また、留学生に対する学修面や生活面に係る支援体制を充実すること。	指摘事項 (是正)	①入学者選抜 学内の日本語別科から学内進学として多くの留学生を進学させてきた。令和2年度入試においては、進路指導に十分な時間をかけ厳格な面談等を重ね、教育目標、3つのポリシー【添付1】に基づき、専攻の教育内容に対する関心や意欲を確認した上で、真に本専攻への進学の強い意志と学費負担が可能である学生を選考した。選考にあっては、学力のみならず面接において特に教育内容に対する関心や意欲を重視して審査を行い、入学者を選考した。 ②指導体制 留学生に対する学習面や生活面に係る支援体制については、これまでゼミ担任による指導、支援が主になっていた。これまで【添付2】に示す通り、①教学支援（履修指導、学習支援、学習状況・学習成果の把握等）、②学内外の生活支援、③心身の健康等、④言語サポート、⑤キャリア支援等の支援体制をとり、それぞれの支援の担当部署からの情報は、一旦ゼミ担任に集約され、定期的に学内委員会組織等で共有・審議する体制としてきた。その中で多くの退学者を出してしまっている実状への課題は以下と捉えている。 (1) 大学組織として管理する体制は取っているものの、大学組織として学生の成長を可視化し、学生の意識向上につなげる取り組みについて、組織的分担を明確にできていなかった。 (2) 日々の学生指導が、教員個々の努力に基づくものが大きい。 (3) 学習成果の可視化について、学生が客観的に成長を可視化しにくい指標となっていた。 このため、令和元年度の	令和3年度（2021年度）より専攻課程統合の学科改組を行い、様々な学生の要望に応えることができる自由度の高いカリキュラムとすることで、学生の学びへの意欲向上と、退学者の減少につなげていきたい。 これまでのカリキュラムは、専攻課程の特色を強化することを目的に、カリキュラムの必修化が進み硬直化していたと言える。このため、学生の幅広い要望や、進路変更等に応えきることができず、退学等の要因にもなっていたと捉えている。 改組後のカリキュラムは、本学の建学の精神である美道を教育の軸とし、履修コース制による履修モデルを示した上で、学生が自由に履修を組み立てることができるカリキュラムとすることで、学生の様々な要望に応え、かつ在学中での進路希望変更などにも臨機応変に対応し、学生の学びの意欲向上と合わせ、学生の退学率の減少につなげていきたい。 改組後のアドミッション・ポリシーと入学者選抜の方法は、【添付3】のとおり定めることとし、教育内容に対する関心や意欲を適切に確認し、選抜する体制とする。 また、学生の支援策についても、自由度の高いカリキュラムであるからこそ、学生が何を学び何を身につけるのかを明確にし、アセスメント・ポリシーに基づき、学生の成長を可視化し、学生の主体性を伸ばすことで、退学者の減少に繋げていくこととしたい。

設置計画履行状況等調査実地調査をいただいた後、改善の方策として、以下を示し、改善を進めている。

③改善方針・体制

学生の成長の評価方法見直し、組織的把握と指導体制の強化により、学生のモチベーション向上とキャリア意識の向上につなげ、退学率を減少させる。

⇒2015年度より学習成果カルテ（ループリック）を大学組織の制度として導入し、学習成果を質的・量的データとして測定できるよう整備してきた。

しかしその評価方法は、学生個人の自己分析と、教員の主観による評価のみとなっており、また個々の学生へのリフレクションも、ゼミ教員に一任されているため、結果として成長の度合いが見えづらくなるケースがあったと認識している。

改善策として、以下を進めることとして、すでに取り組みを始めているところであるが、改めて大学組織として管理することを認識し、改善を進める。

【改善策】

- ・学習成果（学生の成長）の把握方法として、GPAや、令和元年度より導入した、学外の標準テスト（PROG）等を活用し、客観的な指標も加え、評価項目の見直しとループリックの精緻化を図る。

- ・大学組織としての把握・分析を進め、役割分担を明確にした組織的改善活動を進める。

- ・教員のコーチング、傾聴等のスキル向上のため、FD活動を強化する。

なお、令和2年度にあっては、コロナウィルス感染症拡大のため5月から遠隔授業としており、学生支援もオンラインでの対応となっている。一時帰国した留学生などは未だ入国できておらず、本国から遠隔授業を受講している学生もあり、授業外でも逐次連絡を取り、学修や精神面のサポートを行っている。学費支援においても、通信環境等の整備支援金として一律6万円を給付することや、学費の納入期限延長と、延期納付（延納）・分割納付（分納）制度、大学独自の奨学制度を設けるなど支援し、学生が当初の目的を達成できるよう大学組織としての支援を続けている。

設置計画履行状況 調査時 (令和2年度) 追加書面調査	入学定員超過率については未だに1.13倍と比較的高い状況であるが今後の具体的な改善計画内容とその効果の見込みが不明瞭であることから、資料等に基づいて具体的に説明すること。	指摘事項 (是正)		履行中 令和3年度より、専攻課程を統合する学科改組（美容総合学科 美容デザイン専攻、エステティック専攻、国際美容コミュニケーション専攻の学生募集停止について（報告）（令和2年3月31日提出済））を行う。本改組に伴い、入学定員は従来の専攻毎の管理から単一学科としての一括管理となる。改組後は、改めてアドミッション・ポリシーに則った審査を基に、入学定員超過率を1.0倍以内とし、令和3年度に履行済とする。 令和3年度入試においては、11月現在において募集定員245名に対し140名の出願を得ており、募集活動は順調に推移している。 この度の改組により、本学の建学の精神である「美道」を基盤とする教育体系を整え、教育目標に基づく人間力の育成を学習成果として明確化することで、今後の学生募集に繋げ、適正に定員管理を実施することと合わせ、教育の質の更なる充実と向上に努める。
設置計画履行状況 調査時 (令和2年度) 追加書面調査	退学者の減少に向けた課題の分析やについての具体的な改善計画内容とその効果の見込みが不明瞭であることから、客観的な数値等に基づく資料で具体的に説明すること。	指摘事項 (是正)		履行中 これまで、就学意欲の低下による退学者が多かったことから、今年度はアドミッション・ポリシーに基づき、入学後2年間の学修に対する意欲と実行計画を重視して留学生の選抜を実施した。また、学修面や生活面に係る支援として、ゼミ活動を取り入れて学生の指導・支援を行っている。従来、ゼミ活動は担当教員個々の裁量に委ねてきたが、今年度は学校組織として運営すべく教員間の連携を強化した。 具体的な取り組みは以下の通りである。 ●2日連続で休んだ場合、ゼミ担当教員より、電話連絡を行う。連絡がつかない場合は、友人やバイト先などを通じて連絡を行う。状況次第では、母国へ連絡する場合もある。 ●全科目の出欠データを一元管理し、学生の出欠状況等をリアルタイムに教員間で共有し、必要に応じて適切な指導に当たる。 ●非常勤教員を含めた全教職員、ならびに全学生に同一ドメインのメールアドレスを付与した。このことで、教育ツールである「Googleクラスルーム」、日常の教職員間の連絡・情報共有ツールである

「SLACK」の活用が可能となり、迅速な連絡・相談の体制を整備した。Googleクラスルームの導入により、学修・生活・健康に関する質問や相談に際しても対応可能な環境が整った。

●各種会議体（学長室会議、自己点検評価改善委員会、学生教務委員会、キャリア委員会、専攻会議等）にて学生情報を共有し、非常勤教員を含めた教員間、各事務部署との連携を強化することによって、学生指導の役割と実践内容を明確にした。

退学者の減少については、入学者選抜の厳格化、各種学修面や生活面に係る支援・取組が奏功し、効果が表れてきている（今年度10月末の段階での留学生の退学者等は20名であり、昨年同時期の30名と比較して減少傾向にある）。

一方、退学等の理由には大きな変化がみられる。特に進路変更や就学意欲の低下による退学は、昨年度同時期の15名から今年度2名と著しく減少している。

令和3年度の改組後は、コース制による履修モデルを示した上で学生が自由に履修を組み立てることができるカリキュラムとなる。このことから、修学途中での進路変更等にも臨機応変に対応することが可能となり、学生の学修意欲の向上あるいは低下防止につながることが推測され、更なる退学者の減少も期待される。

他方、令和3年度より、改組と合わせ学校運営体制の見直しも行い、学費の見直しを行った。このことにより、経済的理由による退学者の減少に繋がる効果を見込んでいる。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で退学を考えざるを得ない学生や、体調不良を訴える学生が増えている。これら学生の心身面のケアに向けては、学内に精神科医、看護師、スクールカウンセラーを配置する体制を整えているが、次年度以降も新型コロナウイルスの影響が想定されるため、支援体制を強化していく。

現在、学生からの健康チェックに関わる質問や相談に際しては、Googleクラスルームを有効に活用している。

設置計画履行状況 調 査 時 (令和3年度)	入学定員超過率について、令和2年は大幅に改善されたものの、平均入学定員超過率は1.97倍と依然として著しく高い。また、依然として多くの留学生が退学・除籍となっている。そのため、学科の改組や経済的支援の充実等の提示された取組等を確実に実施する等、適切な対策を実施すること。	指摘事項 (是正) 令和3年度より専攻課程を統合する学科改組を行い、アドミッションポリシーに基づき真に学習意欲のある学生を選抜することで、入学定員超過率は0.66倍となった。このことにより、平均入学定員超過率も0.64倍となり定員超過が改善された。 入学者数は定員を下回る状況であるが、学科改組を行ったことにより令和2年度の155名から、令和3年度は164名に増加した。入学した学生については、例年以上に学習に対し主体的に取り組む姿勢が見受けられる。その表れとして、土曜開講の科目等にも積極的に履修している他、授業が楽しいとの声を多数確認している。また、今年度入学者164名の内90名を超える学生がオープンキャンパススタッフに立候補し、4月のオープンキャンパス以降自らの学びを高校生に伝える等、非常に前向きな姿勢もみられる。 学生募集においては、このような学生の学びへの意欲を学習成果と共に伝えとともに、定員を遵守した募集活動を行い、安定した学校運営を目指す。 留学生の退学・除籍に対しては、学科改組の他、教職員間の連携を密にした指導体制を整え、各種対応に取り組んだ。特に令和2年度はコロナ禍において、母国の親が失業したり、春休みに帰国し再入国できなかったりと、予期しない事態に見舞われる学生が続出した。そのような場合には、学習支援、経済的支援の充実強化とともに、家庭訪問やオンラインを活用した相談を実施し、心理面のケアにあたった。その結果、多くの学生たちはモチベーションを維持し、学修や就職活動等を続けることができた。具体的な取り組みと成果は以下のとおりである。 ■経済的支援 ・留学生の学費を30%減免 ・通信環境等整備費として全学生に6万円支給 ・学生の状況を考慮した学費の延納・分納制度の適用 ・コロナウィルス感染症の影響で家計が急変した者に対し学費30万円減免 ・本学が行う制度と合せ、政府や民間等が行う支援制度の周知を徹底	履行済 組織的な学生支援を教職員一丸となって取り組み、定員を遵守した募集活動を行うとともに安定した学校運営を目指す。
---------------------------------------	--	---	--

これらの取り組みにより、ほとんどの留学生が学費の延納・分納制度を活用した。コロナ禍にあって家計が急変した留学生のうち、8名が学費減免制度を活用し、学業継続に繋がった。

令和3年度からは、改組に合わせ学費の見直しも行った。

■組織的な学生支援

- ・欠席者管理と欠席者への連絡指導の徹底
- ・健康管理室に、看護師が常駐する他、精神科医、スクールカウンセラーを配置し対応
- ・毎日検温結果報告並びに体調報告を実施し、学生状況を把握。支援が必要な場合は、健康管理室が迅速に対応
- ・ZOOMによるオンライン会議やGoogleクラスルーム、SLACK等による情報共有と相談体制の強化
- ・オンライン授業に慣れない学生への学習支援（常時相談受付、補講等）
- ・キャリア指導センター、ゼミ担任、コンサルタントによる定期的な留学生キャリア会議の開催（週1回）
《留学生の進路支援について、就職活動の進め方、心得、履歴書の書き方（内容）、面接の仕方、ハローワーク引率、企業説明会設定、内定後のビザ変更等》
- ・週1回のゼミ担任間の打ち合わせ
- ・月1回の留学生部会の開催
《留学生の学修、生活、健康面などの共有と対策の検討を行い、学生・教務委員会で審議。
- ・学生・教務課とゼミ担任の連携
《学生・教務課と密に問題等共有し、連携した指導を行った。（指導・連絡、家庭訪問等）》

これらの取り組みの結果、授業欠席や不登校等の諸問題に対する適切かつ迅速な対応と個々の学生に対する多方面からの密な支援を行い、学修をあきらめてしまう学生を減らすことができた。

令和3年度からは、学生の学修意欲の維持・向上を狙いに、修学途中において逐次学習成果を可視化するゼミ活動の仕組みを整備した。このことによって、ディプロマポリシーのルーブリック【添付1】に基づいた各科目の学習成果の振り返りが可能となった。

設置計画履行状況 調査時 (令和3年度) 追加書面調査	昨年度のＡＣ調査において、令和3年度より、専攻課程を統合し1学科複数専攻に改組するにあたり、「コース制による履修モデルを示した上で学生が自由に履修を組み立てることができるカリキュラムとする」ことが報告されているが、従前の専攻と、統合後のコースとの差異及び関係について説明すること。 また、各コースの定員設定と、実際のコース毎の学生数、コース希望者の振り分けの方法について説明すること。	指摘事項 (是正)		従前は、美容デザイン専攻、エステティック専攻、国際美容コミュニケーション専攻の3専攻課程を組織していたが、改組では専攻課程を廃し、1学科の組織とした。 従前のカリキュラムでは、資格取得等に重きがおかれ、科目の必修化などカリキュラムの硬直化が進み、休退学増加の要因にもつながっていた。 このことから、改組においては選択の履修コースとして、美容師免許取得コース、インナービューティーコース、グローバルキャリア・ビューティビジネスコースの3つの履修コースを示し、さらにその中に7つの学びの領域からなる選択科目群を配置するカリキュラム体系とした。【添付2】 改組カリキュラムを構築するにあたっては、改めて建学の精神である「美道」の考え方にに基づき、育成する人材像を明確に示すことを優先して行った。 グローバル化が進み、多様な価値観が混じり合う社会において、自己研鑽を経て身につけた能力や特性をいかに社会に還元するかが有意義かつ豊かな人生を送る際には重要となる。このような、利他的で社会に奉仕する振る舞いを本学では「美しい生き方」と捉え、それを極める道程を「美道」と位置づけ、ディプロマポリシーにおいては、その「美道」を追求・実践する姿として「美しく生きるために必要な能力を有し、美容を通じ広く国際社会に貢献しうる人材を育成する」としている。 自分を受容・肯定し、志をもって実社会で「美しい生き方」ができれば、時代や環境が変わろうとも常に自分らしく成長し、豊かに生きることができる。このような行動特性を身につけることを目指してカリキュラム（教育課程）を編成した点が資格取得に重きを置いた従前の専攻制との違いである。【添付3】 また、ゼミ活動においては、これまで専攻課程ごとにクラス編成していたが、1学科での編成とし、ゼミ内に各コースの学生が所属することでコースを越えた横断的な関係性が構築できた。結果将来への思考を学生同士が互いに共有することにより、より多様性を考慮したクラスの編成を可能とした。 コースは、あくまで履修モ
--	---	----------------------	--	---

				デルを区分するためのものであることから、コース毎の定員数は設けていないが、美容師免許取得コースについては、美容師養成施設との関連から入学者数の上限を定めている。 学生には、履修の目的や目標を意識させることや所属意識を持たせるため、コースの登録は行っている。 令和3年度スタート時のコース毎の学生数は、美容師免許取得コース134名、インナービューティーコース18名、グローバルキャリアビューティービジネスコース12名となっている。 コース希望の振り分け方法については、入学志願票【添付4】に履修希望コースを記載させ、事前に美容師免許取得希望者と履修希望の偏り状況を把握している。 この情報を基に、入学後オリエンテーションにおいて履修説明を行ったうえ、ゼミ活動でさらに個々の学生と面談等行い、履修指導の徹底を図っている。 (卒業要件として、履修コースに則らない履修も認めている)
設置計画履行状況調査時 (令和3年度) 追加書面調査	「令和3年度に専攻課程を統合する学科改組により、学科としての平均入学定員超過率が0.64倍となり、定員超過が改善された」とあるが、学科の入学定員超過率については、令和2年度も0.63倍であり、定員の充足状況について大きな変化は見られない。 専攻課程を統合し、コース制に変更したことに伴う学科の定員規模に対する適切な定員管理の在り方や学生確保への考え方について説明すること。また令和3年度の入学者選抜の分析・評価について説明すること。	指摘事項 (是正)	履行済	これまで、専攻課程ごとの定員管理を実施していたが、改組後は、教育課程・教職員組織・施設設備を踏まえ、学科での一括定員管理を行う体制とした。 また、授業科目の開講は専攻課程ごとに編成していたが、1学科として編成することにより、効率的な授業運営を可能とした。 授業は、原則1クラス40名以内で運営しており、ゼミや語学等においては、更に少人数の区分けとしている。 学生募集においては、これまでの専攻課程では、美容師やエステティシャンなど職業や資格制度に対する印象が強かったことと合わせ、本学の建学の精神でもある「美道」に基づく教育を十分に伝えることが出来ていなかった。 この度の学科改組を期に、一貫して「美道」に基づく教育を明確に示した。 オープンキャンパス等においては、在学生自らが本学での学びや、「美道」について来校者への説明や相談に応じている。その中で、学生が自らの成長も合わせて伝えることができており、来校者からも良い反応を得られている。実際に総合型選抜A日程におけるエ

				ントリーシートや面接において「美道」の考えに共感し、志望したという表現が多くみられた。 学生募集においては、9月末までの来校数を昨年度と比較すると、昨年度の受験対象者新規数（実人数）222人の来校に対し、今年度は381人の来校を得ており、前年比171%となっている。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で通常開催ができなかった。そこで、一昨年（2019年）と比較すると132%となり、来校数の改善が見られる。 今年度の受験対象者新規数は最終的に400人を見込んでいる。 入学者の見込みとしては、来校からの出願率は付き添いの友人参加者も受験対象者としてカウントしていたこれまでの受験率41%に比し、コロナ禍において付き添い等の参加は少なかったことから、少々高めとなると見込んで45%～50%と予測している。併せてオープンキャンパスに参加せず、出願する方が例年10人～15人いることから、200人前後の入学者を見込んでいる。 10/9今年度最初に実施された総合型選抜A日程においては、昨年と比較し受験者が18%伸びており、良いスタートを切ることができている。
設置計画履行状況調査 （令和3年度） 追加書面調査	退学及び除籍となった学生数（うち留学生数）について、令和2年度及び令和3年度の状況を、令和元年度と比較しつつ、具体的数値を用いて妥当性を説明すること。 また、その増減の要因分析の際には、具体的・客観的なエビデンスに基づき説明すること。	指摘事項 （是正）		履行済 退学及び除籍となった学生数（内留学生数）は、以下のとおりであった。 令和元年度 在 student 数 494（182）人 退学除籍 前期末 54（38）人 年度末 89（65）人 令和2年度 在 student 数 366（99）人 退学除籍 前期末 28（9）人 年度末 53（31）人 令和3年度 在 student 数 312（30）人 退学除籍 前期末 9（1）人 年度末 — 退学・除籍率は、以下のとおり。 令和元年度 前期末 10.9% 年度末 18.0% 令和2年度 前期末 7.6% 年度末 14.4% 令和3年度 前期末 2.8% 年度末 — 退学理由としては、病気や家庭の事情などやむを得な

				い理由を除くと、進路変更や進学意欲減退による成績不良が主となっている。これら理由による退学及び除籍者数は以下である。 令和元年度：34 人 令和2年度：5 人 令和3年度：5 人 と算定される。実質的に退学・除籍となる学生数については、改善傾向にあると考えられ、これまでの取り組みの成果が見えてきていると捉えている。 特にこれまでは、専攻課程毎のカリキュラムが資格制度と連動していたことから、修学途中での進路変更が難しかった。このことが修学の継続を阻み、退学・除籍となるケースも多かったが、この度の改組をもって修学途中での進路（コース）変更を可能とする体制となり、修学の続行が保持できるようになったことで、結果的に退学・除籍者を減らすことに繋がったものと考えられる。 具体的にはゼミ活動において、毎週学びの振り返りを行っている。その際進路に悩む学生の相談もあり、履修変更等のアドバイスなども行った。これら相談の中で、履修コース変更に至る学生もあり、結果、今年度は11人の学生が履修コースを変更している。これまでであれば休学や退学となっていた可能性も高く、一学科履修コース制の体制が在学継続の意思決定に寄与していると考えられる。 また入学前入学後の認識の差異の回避として、オープンキャンパスの取り組みを再考し、積極的に在学生の参加を促した。 具体的には、学校説明や授業内容の説明など学生目線で感じていること、体験していることを直接在校生から高校生に伝えることで、実際の学校の様子がリアルに伝わり、想像していることと入学後に経験することの差異が小さくなり、退学者の減少に繋がっていると言える。 課題としては、自己受容・自己肯定を行うことを目的とし、学生にコーチングを行う科目等も導入している。しかしながら家庭環境に問題を抱える学生もあり、自分自身を掘り下げる作業を行う上で、心理的にストレスと感じる学生も存在し、今後十分な注意と工夫および慎重な対応が必要であると捉えている。
--	--	--	--	---

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

項 目		Level 1 【AP（再認識）】	Level 2	Level 3	Level 4	Level 5 【学位授与レベル】	Level 6 【DPを超えて目指すレベル】
DP1	知識・技能	☐ 高等学校の教育課程における、国語又は英語に関する基礎学力を持っている。	☒ 高等学校の教育課程における、国語又は英語に関する基礎学力を持っている。	☒ 高等学校の教育課程における、国語又は英語に関する基礎学力を持っている。	☒ 高等学校の教育課程における、国語又は英語に関する基礎学力を持っている。	☒ 高等学校の教育課程における、国語又は英語に関する基礎学力を持っている。	☒ 高等学校の教育課程における、国語又は英語に関する基礎学力を持っている。
		☐ 自身や他者の美しさに関心を持っている。	☒ 自身や他者の美しさに関心を持っている。	☒ 自身や他者の美しさに関心を持っている。	☒ 自身や他者の美しさに関心を持っている。	☒ 自身や他者の美しさに関心を持っている。	☒ 自身や他者の美しさに関心を持っている。
			☐ 必要な知識や技能を習得できる。	☒ 必要な知識や技能を習得できる。	☒ 必要な知識や技能を習得できる。	☒ 必要な知識や技能を習得できる。	☒ 必要な知識や技能を習得できる。
				☐ 習得した知識や技能を活かす場面を想定できる。	☒ 習得した知識や技能を活かす場面を想定できる。	☒ 習得した知識や技能を活かす場面を想定できる。	☒ 習得した知識や技能を活かす場面を想定できる。
					☐ 習得した知識や技能を活かし、応用する場面を想定できる。	☒ 習得した知識や技能を活かし、応用する場面を想定できる。	☒ 習得した知識や技能を活かし、応用する場面を想定できる。
						☐ 習得した知識や技能を、実際の場面で活用し、適切な行動をとることができる。	☒ 習得した知識や技能を、実際の場面で活用し、適切な行動をとることができる。
							☐ 習得した知識や技能を、実際の場面で活用し、適切な行動を継続的にとることができる。
DP2	主体的行動力	☐ 自ら率先して学ぶ意欲があり、努力することができる。	☒ 自ら率先して学ぶ意欲があり、努力することができる。	☒ 自ら率先して学ぶ意欲があり、努力することができる。	☒ 自ら率先して学ぶ意欲があり、努力することができる。	☒ 自ら率先して学ぶ意欲があり、努力することができる。	☒ 自ら率先して学ぶ意欲があり、努力することができる。
		☐ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとすることができる。	☒ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとすることができる。	☒ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとすることができる。	☒ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとすることができる。	☒ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとすることができる。	☒ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとすることができる。
			☐ 1. 自分の周りで起こっていることに興味がある。	☒ 社会や自分の周りで起こっていることに、積極的に関心を持つことができる。	☒ 社会や自分の周りで起こっていることに、積極的に関心を持つことができる。	☒ 社会や自分の周りで起こっていることに、積極的に関心を持つことができる。	☒ 社会や自分の周りで起こっていることに、積極的に関心を持つことができる。
			☐ 2. 社会で周りで起こっていることに興味がある。	☐ 1. 社会や自分の周りで起こっていることの情報を収集することができる。	☒ 社会や自分の状況を把握し、行動の目的を明確にできる。	☒ 社会や自分の状況を把握し、行動の目的を明確にできる。	☒ 社会や自分の状況を把握し、行動の目的を明確にできる。
			☐ 3. 社会や自分の周りで起こっていることに、積極的に関心を持つことができる。	☐ 2. 社会や自分の周りで起こっていることの情報を整理することができる。	☐ 1. 社会や自分の状況を把握し、行動の目的に合った目標を設定できる。	☒ 社会や自分の状況を把握し、行動に伴う責任を明確にできる。	☒ 社会や自分の状況を把握し、行動に伴う責任を明確にできる。
				☐ 3. 社会や自分の状況を把握し、行動の目的を明確にできる。	☐ 2. 社会や自分の状況を把握し、設定した目標を達成するためのプロセスを設定できる。	☐ 社会や自分の状況を把握し、目的に合った目標を達成するために自ら行動することができる。	☒ 社会や自分の状況を把握し、目的に合った目標を達成するために自ら行動することができる。
					☐ 3. 社会や自分の状況を把握し、行動に伴う責任を明確にできる。		☐ 社会や自分の状況を把握し、設定した目標を達成するために継続的に行動することができる。

DP3	課題解決能力	☐ 他者の考えを聴くことや自分の考えをまとめることができ、コミュニケーション力を持っている。	☒ 他者の考えを聴くことや自分の考えをまとめることができ、コミュニケーション力を持っている。	☒ 他者の考えを聴くことや自分の考えをまとめることができ、コミュニケーション力を持っている。	☒ 他者の考えを聴くことや自分の考えをまとめることができ、コミュニケーション力を持っている。	☒ 他者の考えを聴くことや自分の考えをまとめることができ、コミュニケーション力を持っている。	☒ 他者の考えを聴くことや自分の考えをまとめることができ、コミュニケーション力を持っている。
		☐ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとすることができる。	☒ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとすることができる。	☒ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとすることができる。	☒ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとすることができる。	☒ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとすることができる。	☒ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとすることができる。
			☐ 1. 問題とは何かを理解できる。 ※問題＝「現状」が「あるべき姿」になっていないこと	☒ 社会や自分の周りにある問題を発見できる。	☒ 社会や自分の周りにある問題を発見できる。	☒ 社会や自分の周りにある問題を発見できる。	☒ 社会や自分の周りにある問題を発見できる。
			☐ 2. 課題とは何かを理解できる。 ※課題＝問題を解決するための具体的な手立てを考えること	☐ 1. 発見した問題を分析し、背景（原因）を理解することができる。	☒ 社会状況や様々な情報から、課題の背景を理解できる。	☒ 社会状況や様々な情報から、課題の背景を理解できる。	☒ 社会状況や様々な情報から、課題の背景を理解できる。
			☐ 3. 社会や自分の周りにある問題を発見できる。	☐ 2. 発見した問題の背景（原因）を理解した上で、課題を発見できる。	☐ 1. 課題を解決するために、データを活用することができる。	☒ データや様々な思考法を用いて、課題を分析し、解決策を想定できる。	☒ データや様々な思考法を用いて、課題を分析し、解決策を想定できる。
				☐ 3. 社会状況や様々な情報から、課題の背景を理解できる。	☐ 2. 課題を解決するために、様々な思考法を活用できる。	☐ データや様々な思考法を用いて課題を分析し、社会状況を勘案した解決策を想定できる。	☒ データや様々な思考法を用いて課題を分析し、社会状況を勘案した解決策を想定できる。
					☐ 3. データや様々な思考法を用いて、課題を分析、解決策を想定できる。		☐ データや様々な思考法を用いて課題を分析し、社会状況を勘案した上で、解決策を提示できる。
DP4	多様な価値観や考え方を理解し、受け入れる能力	☐ 他者の考えを聴くことや自分の考えをまとめることができ、コミュニケーション力を持っている。	☒ 他者の考えを聴くことや自分の考えをまとめることができ、コミュニケーション力を持っている	☒ 他者の考えを聴くことや自分の考えをまとめることができ、コミュニケーション力を持っている	☒ 他者の考えを聴くことや自分の考えをまとめることができ、コミュニケーション力を持っている	☒ 他者の考えを聴くことや自分の考えをまとめることができ、コミュニケーション力を持っている	☒ 他者の考えを聴くことや自分の考えをまとめることができ、コミュニケーション力を持っている
		☐ 自身や他者の美しさに関心を持っている。	☒ 自身や他者の美しさに関心を持っている	☒ 自身や他者の美しさに関心を持っている	☒ 自身や他者の美しさに関心を持っている	☒ 自身や他者の美しさに関心を持っている	☒ 自身や他者の美しさに関心を持っている
		☐ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとすることができる。	☒ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとすることができる。	☒ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとすることができる。	☒ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとすることができる。	☒ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとすることができる。	☒ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとすることができる。
		☐ 人と関わるのが好きで、相手の笑顔に幸せを感じることができる。	☒ 人と関わるのが好きで、相手の笑顔に幸せを感じることができる。	☒ 人と関わるのが好きで、相手の笑顔に幸せを感じることができる。	☒ 人と関わるのが好きで、相手の笑顔に幸せを感じることができる。	☒ 人と関わるのが好きで、相手の笑顔に幸せを感じることができる。	☒ 人と関わるのが好きで、相手の笑顔に幸せを感じることができる。
			☐ 1. 自己理解ができている。	☒ 自分のアイデンティティを認識できる。	☒ 自分のアイデンティティを認識できる。	☒ 自分のアイデンティティを認識できる。	☒ 自分のアイデンティティを認識できる。
			☐ 2. 更に深く自己を理解するために自分と向き合うことができる。	☐ 1. 自分とは異なる社会・文化を理解することができる。	☒ 自分とは異なる価値観や考え方を持つ人々の社会的・文化的背景を理解し、尊重できる。	☒ 自分とは異なる価値観や考え方を持つ人々の社会的・文化的背景を理解し、尊重できる。	☒ 自分とは異なる価値観や考え方を持つ人々の社会的・文化的背景を理解し、尊重できる。
			☐ 3. 自分のアイデンティティを認識できる。	☐ 2. 自分とは異なる価値観や考え方を持つ人々を理解・尊重できる。	☐ 1. 自分のアイデンティティを認識した上で、自分とは異なる社会や文化の違いを理解できる。	☒ 自分とは異なる価値観や考え方を持つ社会的・文化的背景を持った人々とコミュニケーションをとることができる。	☒ 自分とは異なる価値観や考え方を持つ社会的・文化的背景を持った人々とコミュニケーションをとることができる。
				☐ 3. 自分とは異なる価値観や考え方を持つ人々の社会的・文化的背景を理解し、尊重できる。	☐ 2. 自分のアイデンティティを認識した上で、自分とは異なる価値観や考え方を持つ人々との違いを理解・尊重できる。	☐ 自分のアイデンティティを認識し、自分とは異なる価値観や考え方を持つ人々の社会的・文化的背景を理解・尊重し、世界中の様々な人々と協働できる。	☒ 自分のアイデンティティを認識し、自分とは異なる価値観や考え方を持つ人々の社会的・文化的背景を理解・尊重し、世界中の様々な人々と協働できる。
					☐ 3. 自分とは異なる価値観や考え方を持つ社会的・文化的背景を持った人々とコミュニケーションを取ることができる。		☐ 自分のアイデンティティを認識し、自分とは異なる価値観や考え方を持つ人々の社会的・文化的背景を理解・尊重し、世界中の様々な人々と継続的に協働できる。

DP5	日本の伝統と文化を理解し、美意識を備えて行動できる能力	☐ 自身や他者の美しさに関心を持っている	☒ 自身や他者の美しさに関心を持っている	☒ 自身や他者の美しさに関心を持っている	☒ 自身や他者の美しさに関心を持っている	☒ 自身や他者の美しさに関心を持っている	☒ 自身や他者の美しさに関心を持っている
		☐ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとする ことができる。	☒ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとする ことができる。	☒ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとする ことができる。	☒ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとする ことができる。	☒ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとする ことができる。	☒ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとする ことができる。
		☐ 人と関わるのが好きで、相手の笑顔に 幸せを感じることができる。	☒ 人と関わるのが好きで、相手の笑顔に 幸せを感じることができる。	☒ 人と関わるのが好きで、相手の笑顔に 幸せを感じることができる。	☒ 人と関わるのが好きで、相手の笑顔に 幸せを感じることができる。	☒ 人と関わるのが好きで、相手の笑顔に 幸せを感じることができる。	☒ 人と関わるのが好きで、相手の笑顔に 幸せを感じることができる。
			☐ 1. 日本の伝統と文化の中にある美意識 に興味がある。	☒ 日本の伝統と文化の中にある美意識を理 解できる。	☒ 日本の伝統と文化の中にある美意識を理 解できる。	☒ 日本の伝統と文化の中にある美意識を理 解できる。	☒ 日本の伝統と文化の中にある美意識を理 解できる。
			☐ 2. 日本の伝統と文化の理解に努めるこ とができる。	☐ 1. 社会生活において、日本の伝統と文 化の中にある美意識が取り入れられている場 面を想定できる。	☒ 日本の伝統と文化の中にある美意識を自 覚し、動することができる。	☒ 日本の伝統と文化の中にある美意識を自 覚し、社会生活において行動することができる。	☒ 日本の伝統と文化の中にある美意識を自 覚し、社会生活において行動することができる。
			☐ 3. 日本の伝統と文化の中にある美意識 を理解できる。	☐ 2. 社会生活において、日本の伝統と文 化の中にある美意識が取り入れられている理 由を想定できる。	☐ 1. 日本の伝統と文化の中にある美意 識を自覚し、社会生活において行動を習慣化す ることができる。	☒ 日本の伝統と文化の中にある美意識の価 値観を、世界の人々に伝えていきたいという 意志を持ち、行動することができる。	☒ 日本の伝統と文化の中にある美意識の価 値観を、世界の人々に伝えていきたいという 意志を持ち、行動することができる。
				☐ 3. 日本の伝統と文化の中にある美意識 を自覚し、行動することができる。	☐ 2. 日本の伝統と文化の中にある美意 識の価値観を、自分の周り人々に伝えることが できる。	☐ 日本の伝統と文化の美意識の中にある おもてなしの心を持ち、他の日本人や世界 の豊かな生活に貢献するために行動すること ができる。	☒ 日本の伝統と文化の美意識の中にあるお もてなしの心を持ち、他の日本人や世界の豊 かな生活に貢献するために行動することができ る。
					☐ 3. 日本の伝統と文化の中にある美意 識の価値観を、世界の人々に伝えていきたい という意志を持ち、行動することができ る。		☐ 日本の伝統と文化の美意識の中にあるお もてなしの心を持ち、他の日本人や世界の豊 かな生活に貢献できる。
DP6	美しく生きる力を実践できる能力					☐ 美道を基本とし、「知識・技能」、 「主体的行動力」、「課題解決能力」、 「多様な価値観や考え方を理解し、受け入 れる能力」、「日本の伝統文化を理解し、 美意識を備えて行動できる能力」を兼ね備 え、状況に応じてこれらの能力を単一または複 合的に捉え、自分や他者が豊かな人生を送るための考 え方を説明し、提案することができる。	☐ 美道を基本とし、「知識・技能」、「主 体的行動力」、「課題解決能力」、「多様な 価値観や考え方を理解し、受け入れる能 力」、「日本の伝統文化を理解し、美意識を 備えて行動できる能力」を兼ね備え、状況に 応じてこれらの能力を単一または複合的に捉 え、自分や他者が豊かな人生を送るための考 え方を説明、提案し、行動することができ る。
判 定		☐ 評価時、次の2点を明確にし、指導記録 に記載する。 ・ステップアップのポイント（根拠） ・留まっている課題（停滞の根拠） ☐ 1つでも実例があれば、「できる」と評価 する。 ※積み重ね	同左 同左	同左 同左 同左 同左	同左 同左 同左 同左	同左 同左 ☐ DP6は、DP1-DP5の全ての項目に ☒ チェッ クが必要である。	同左 同左 ☐ DP6は、DP1-DP5の全ての項目に ☒ チェッ クが必要である。

美容総合学科

カリキュラム

必修科目

【美道プロジェクト】

美道論/美道プロジェクトIA・IB/美道プロジェクトII/
ゼミI・II/美しい思いやり/
美齢学®ジェロントロジー/伝承美(華道・茶道・着装I)

【ビジネス・キャリア系】

ビューティービジネス(基礎)/思考法と課題解決法/
キャリアデザインI・II



美齢学®ジェロントロジーでは、健康で、美しく年齢を重ねるために必要なことを学びます。



茶道、華道、着付けを通して、日本の伝統的な文化やおもてなしの精神を学びます。

選択科目

コース科目

美容師免許取得コース 推奨科目

【美容師法定科目】

美容関係法規/美と衛生I・II/
美容衛生管理論/美と健康科学/
人体の美と科学I・II/香粧品化学/
香粧品研究/美容芸術文化史/
ファッション文化史/美容デザイン論I~V/
美容と経営/美容デザイン実習I~IX/
伝承美(着装II)/メイクアップI/ネイル技術I

【グローバルスタイリスト】

Applied General and Business English I/
Aesthetics English I/
グローバルスタイリストイングリッシュI・II/
グローバルスタイリスト演習I・II

【美容師のためのビューティービジネス】

美容師のためのビューティービジネス(基礎)
美容師のためのビューティービジネス(応用)

そのほか「共通ビジネス科目」の全科目推奨

インナービューティーコース 推奨科目

【美のための 栄養】

生命活動概論/プライマリー栄養学/
食品栄養学/ビューティー栄養学/
体重コントロール・ボディデザイン栄養学/
ライフステージ栄養学

【美のための 健康】

人体の美と科学I・II/香粧品化学/
生体学/ヘルスケア概論/
アクティブレスト&リフレッシュ/
アクティブヘルスプロモーション/
アクティブライフデザイン

【美のための 心理】

パートナーシップ心理学/
ウェルビーイング心理学/色彩心理学/
ファッショントレンド心理学/
ダイバーシティ心理学/好きをひも解く心理学/
カウンセリング・コンサルティング概論

グローバルキャリア・ ビューティービジネスコース 推奨科目

【グローバルコミュニケーション】

Applied General and Business English I/
Aesthetics English I/
Applied General and Business English II/
Aesthetics English II/
Applied General and Business English III/
Aesthetics English III/
Applied General and Business English IV/
Aesthetics English IV

【ビューティービジネス】

Applied General and Business English I/
Aesthetics English I/
ビューティービジネス(応用)

そのほか「共通ビジネス科目」の全科目推奨

「7つの学問領域」コースを超えて選択できます

共通ビジネス科目

【ビジネススキルサポート】

美しいサービス/産官学連携講座/知って得するパソコン術/今のうちに学ぼうビジネス文章/美しいコミュニケーション/クリエイターに学ぶ広告・SNS

【自分の世界を広げる】

絵本と童謡の世界/人に伝えたい映画の世界/頭が良くなるニュースの見方/世界一周しながら考えるCOOL JAPAN戦略/
役者に学ぶ感情表現とクリエイターに学ぶ動画制作/自分が輝く自己肯定感/ミライを楽しむための思考トレーニング

自由選択科目

【美容芸術系】

セルフプロモーション/メイクアップII/ネイル技術II/色彩学/アート&デザイン/美容心理学

【海外研修】

海外研修(ヨーロッパ)/海外研修(アメリカ)

【認定エステティシャン】

フェイシャルエステティック/エステティックI・II/エステティック理論

【インターンシップ】

社会を知る(インターンシップ、ボランティア、海外インターンシップ)

【資格系】

総合プライダル学/チャイルドケア演習/美齢学®演習/基礎介護演習

【その他】

グローバルコミュニケーション(日本語)I・II/ヨガ

■ディプロマポリシー

本学の教育目標は『美しく生きる力』を形成することである。よって、輩出する人材像は、具体的に以下の能力を身に付けた者である。

1. 【知識・技能】

知識や技術を適切に運用できる能力

- ・必要な情報を収集、整理し、課題を発見できる
- ・習得した美容の知識や技能を関連づけながら他者への提供ができる

〈美容デザイン専攻〉

- ・美容におけるデザインを総合的な視点で捉え、提供することができる

〈エステティック専攻〉

- ・美や健康を総合的な視点で捉え、提供することができる

〈国際美容コミュニケーション専攻〉

- ・国際性を総合的な視点で捉え、英語によるコミュニケーションを発揮することができる

2. 【思考力・判断力】

課題解決のために思考し、判断できる能力

- ・広い視野と、思考法に基づき分析、解釈できる
- ・根拠に基づき判断し、解決策を立てることができる

3. 【表現力】

課題解決のために適切に表現できる能力

- ・習得した知識や技能を基に、自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述・作品等）できる
- ・解決策を提示できる

4. 【主体的行動力】

課題解決のための精神力、主体的に行動できる能力

- ・自ら率先して学ぶことができる
- ・自己を理解し、主体的に適性や個性を生かし行動できる
- ・失敗してもあきらめずにやり遂げることができる
- ・社会の一員として、自覚と誇りを持って行動できる

5. 【ホスピタリティ・コミュニケーション力】

多様な人とホスピタリティをもってコミュニケーションできる能力

- ・様々な状況に応じて適切な対話、討論ができる
- ・目的達成のために、多様な人と協働できる
- ・様々な人のニーズを把握し、おもてなしの精神を持ったサービス提供ができる

【添付 3-1】旧 3 ポリシー（1 学科 3 専攻課程）

■アドミッションポリシー

建学の精神、教育目標及び各専攻のディプロマポリシーを理解し、その目標に向かって努力できる人材を希望します。 具体的には、以下のような人物を求めます。

<各専攻において求める人物像>

1. 知識・技能
 - ・美しさへの関心を持っている人
 - ・新しい知識や技能の習得に興味のある人
2. 思考力・判断力
 - ・物事を幅広い視野から総合的に見つめようとする人
3. 表現力
 - ・他者の考えを聴くことができる人
 - ・自分の考えをまとめることができる人
4. 主体的行動力
 - ・自ら率先して学ぶ意欲があり、努力する人
5. ホスピタリティ・コミュニケーション力
 - ・人とかかわることが好きで、相手の笑顔に幸せを感じる人

◎美容デザイン専攻

- ・美容（ヘアやメイクアップなど）に興味がある人
- ・手を動かして「もの」をつくるのが好きな人

◎エステティック専攻

- ・美容（エステティックなど）に興味がある人
- ・美と健康に興味がある人

◎国際美容コミュニケーション専攻

- ・英語でのコミュニケーションに興味がある人
- ・美容（メイクアップなど）に興味がある人

<入学選抜の実施方針>

本学は、学力を構成する重要な要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体性・多様性・協働性」）を踏まえた多面的・総合的に評価する入学選抜を実施します。

<入学前までに身に付けておいてほしい力>

高等学校で履修する範囲の基礎学力を有している。

■カリキュラムポリシー

〈美容デザイン専攻〉

本学の教育目標は『美しく生きる力』を形成することである。美容デザイン専攻では、幅広い教養と、美容知識・技術の習得を通して、課題を発見し、解決する能力を備え、他者のニーズを踏まえて「美」を表現するデザイン力、加えて国際性を兼ね備えた、美容産業を中心とする様々な分野で活躍できる人材を育成する。そのため、以下のような方針に基づきカリキュラムを編成している。

美容デザイン専攻のカリキュラムは、次の3つの領域で構成する。

1) 教養領域

伝承美や語学、心理学等の教養を身につける。

2) 美容知識・技術領域

根拠に基づく技術を身につける。

3) 美容デザイン領域

他者のニーズをつかむ力と、「美」を表現する力を培う。

上記の3領域を通して、課題を発見し、解決する能力を備え、あらゆる他者にホスピタリティ及びコミュニケーション力を発揮できる力を身につける。

〈エステティック専攻〉

本学の教育目標は『美しく生きる力』を形成することである。エステティック専攻は、幅広い教養と、美容知識・技術の習得を通して、課題を発見し、解決する能力を備え、人のからだの「美」について、医学、生理学、栄養学、心理学など総合的な視点でとらえることができる力、加えて国際性を兼ね備えた、エステティック産業を中心とする様々な分野で活躍できる人材を育成する。そのため、以下のような方針に基づきカリキュラムを編成している。

エステティック専攻のカリキュラムは、次の3つの領域で構成する。

1) 教養領域

伝承美や語学、心理学、社会学等の教養を身につける。

2) 美容知識・技術領域

根拠に基づく技術を身につける。

3) エステティック領域

心とからだの「美」を理解し、確かな手技と機器に対する正しい知識を身につける。

上記の3領域を通して、課題を発見し、解決する能力を備え、あらゆる他者にホスピタリティ及びコミュニケーション力を発揮できる力を身につける。

〈国際美容コミュニケーション専攻〉

本学の教育目標は『美しく生きる力』を形成することである。国際美容コミュニケーション専攻は、幅広い教養と、美容知識・技術の習得を通して、課題を発見し、解決する能力を備え、語学力や自国文化を含めた異文化理解などの国際性を兼ね備えた、サービス産業を中心とする様々な分野で活躍できる人材を育成する。そのため、以下のような方針に基づきカリキュラムを編成している。

国際美容コミュニケーション専攻のカリキュラムは、次の4つの領域で構成する。

1) 教養領域

伝承美や社会学、心理学等の教養を身につける。

2) 語学領域

英語・日本語によるコミュニケーション力を身につける。

3) 美容知識・技術領域

根拠に基づく技術を身につける。

4) 国際領域

多様な文化を学ぶことで、国際性を身につける。

上記の4領域を通して、課題を発見し、解決する能力を備え、あらゆる他者にホスピタリティ及びコミュニケーション力を発揮できる力を身につける。

■カリキュラムポリシー

グローバル化が進み、多様な価値観が混じり合う社会において、自己研鑽を経て身につけた能力や特性をいかに社会に還元するかが有意義かつ豊かな人生を送る際には重要となる。このような、利他的で社会に奉仕する振る舞いを本学では「美しい生き方」と捉え、それを極める道程を「美道」と位置づける。ディプロマポリシーにおいては、その「美道」を追求・実践する姿として「美しく生きるために必要な能力を有し、美容を通じ広く国際社会に貢献しうる人材を育成する」こととしている。

自分を受容・肯定し、志をもって「美しく生きる」目標をソーシャルで活かすことができれば、社会や環境が変わろうとも常に自分らしく成長し、豊かに生きることができる。

このコンピテンシーを身につけることを目指し、以下によりカリキュラム（教育課程）を編成する。

必修科目として、建学の精神に基づいた「美道教育」を配置し、「美道」全般に係る知識を学び、自身の言葉で説明できるようにする。この教育を基盤とし、「美道 Project」科目を配置し、成長の根底に係るパーソナル・スキルの開発とソーシャル・スキルの開発によって、美道の統合的知識・技能から「自分らしい生き方」をみつけ、他者に説明出来るようになる。

併せて初年次から2年間をとおして「ゼミ」を配置する。ゼミではコーチング的なアプローチで美道等に係る授業で、どんな学びや気づきがあったかを共有し、各自の美道教育の統合的な気づきのサポートを推進する。また、学生生活支援、学校行事支援、メンタル・モチベーションケアなどを行うことで、総合的な学修の推進を行う。

また、初年次に並行して「キャリアデザイン」を配置し、仕事・就職の観点で、「自分らしく美しく生きる」ためのキャリア形成を構築する。

これら科目間の教育内容が連動し相乗効果が高まるようシラバスの設計を行うとともに、担当教員間での学習成果カルテ等の情報交換を密に行うことで一貫した効果的な学修支援を実施する。

「自分らしく美しく生きる」を目指して行動する力を養うため、「専門知識・技能」を学ぶ科目群を選択科目として配置する。これらの科目群においては、ディプロマポリシーを実現するための履修モデルとして、美容師免許取得コース、インナービューティーコース、グローバルキャリア・ビューティービジネスコースの3つの履修コースを示す。

各履修コースには、以下の学問領域からなる科目群を配置し、自分らしさを表現し活躍するための「美しく生きる力」を身につけることを目指す。

- ・美容師免許取得コース：美容師のためのビューティービジネス
グローバルスタイリスト
- ・インナービューティーコース：美のための栄養

【添付 3-2】 新 3 ポリシー（学科改組後）

美のための健康

美のための心理

・ グローバルキャリア・ビューティービジネスコース：

グローバルコミュニケーション

ビューティービジネス

ディプロマポリシー各号に基づくカリキュラムの編成は下記のとおりである。

1. カリキュラムの編成方針

ディプロマポリシー(以下 DP)に基づく人材育成を実現するため、DP 構成要素に対応したカリキュラムを編成する。

(DP1) 知識・技能

知識・技能を育成するために、美容師免許取得コースにあつては、美容師に必要な知識・技能を基に、美容サービスを総合的な視点で捉えるための科目、グローバルな視点を持ち、英語によるコミュニケーションを身につけるための科目を配置する。

インナービューティーコースにあつては、人が内面から美しくなるための知識を科学的に捉えることができ、栄養・食事、健康づくり、心理や行動の観点から人の美を提案することができるようになるための科目を配置する。

グローバルキャリア・ビューティビジネスコースにあつては、英語によるコミュニケーションスキルや異文化を理解し、グローバルな視点で社会に応用することができる科目、現代のビューティービジネスに関する知識を習得し、時代のニーズを取り入れた新たなサービスを提案することができるようになるための科目を配置する。

(DP2) 主体的行動力

主体的行動力を育成するために、美道 Project、ゼミ、キャリアデザイン、自分が輝く自己肯定感、役者に学ぶ感情表現とクリエイターに学ぶ動画制作、社会を知る、海外研修などの科目を設置する。

(DP3) 課題解決能力

課題解決能力を育成するために、思考法と課題解決法、ビューティービジネス、美容師のためのビューティービジネス、美容デザイン実習、ミライを楽しむための思考トレーニング、クリエイターに学ぶ広告・SNS、メイクアップⅡなどの科目を設置する。

(DP4) 多様な価値観や考え方を理解し、受入れる能力

多様な価値観や考え方を理解し、受入れる能力を育成するために、美道 Project、ゼミ、美齡学ジェロントロジー、グローバルスタイリスト演習、人に伝えたい映画の世界、美しいコミュニケーション、自分が輝く自己肯定感、世界一周しながら考える COOL JAPAN 戦略、好きをひも解く心理学、総合ブライダル学などの科目を設置する。

【添付 3-2】 新 3 ポリシー（学科改組後）

（DP5）日本の伝統と文化を理解し、美意識を備えて行動できる能力

日本の伝統と文化を理解し、美意識を備えて行動できる能力を育成するために、美道論、伝承美（茶道）、伝承美（華道）、伝承美（着装）、美しい思いやり、美しいサービスなどの科目を設置する。

（DP6）美しく生きる力を実践できる能力（総合力）

美しく生きる力を実践できる能力を育成するために、美道論、美道 Project、ゼミ、などの科目を設置する。

2. カリキュラム実施方針および学修成果の評価

以下の点に留意しつつ、カリキュラムを実施する。

- ・各教員は、山野インストラクション・スタンダードに基づいた教育を行う。
- ・各科目は、効果的な理解と習熟度を高めるため、順次制をもって配置する。
- ・知識修得に関する科目に関しては、効果的・効率的な学修を推進するためオンライン教育を積極的に導入する。
- ・主体的、対話的で深い学びの力を高めるために、アクティブラーニングの授業方法を積極的に取り入れる。
- ・主体的な学習に欠かせないセルフマネジメント力を高めるためゼミによるコーチングの実践を行うとともに予習・復習を課し、学生の状況に応じて補講など授業外学修支援を行う。
- ・課題発見・解決力やチームマネジメント力を高めるために、PBL の授業方法を積極的に取り入れる。
- ・外国語教育を推進するため、CLIL の授業方法を積極的に取り入れる。
- ・英語教育科目においては、定期的に外部テスト等を用いた客観的評価を行い、それらを基にしたレベル別クラスの編成を行う。
- ・初年次からゼミを行い、科目内容の理解・各学生の状態の共有によって多様な教員が学生をサポートする状態を構築する。
- ・ゼミにおいて、ディプロマポリシー評価表（ループリック）を基に、卒業までに修得すべき能力を測る。達成度の評価は、定期的に自己評価を行い、ゼミ教員との面談を通して振り返りと改善を行い、学習成果カルテとして記録する。
- ・アセスメント・ポリシーに基づき学期末テストにとどまることなく、レポートや小テスト、学習成果カルテ（ループリック）などで定期的に理解度・習熟度の確認を行い、多面的な評価を行う。
- ・DP 達成のためのカリキュラム実施方針の改善を行うため PDCA サイクルによる教学マネジメントを拡充するとともにファカルティ・ディベロップメント（FD）、スタッフ・ディベロップメント（SD）を推進する。

【添付 3-2】新 3 ポリシー（学科改組後）

アドミッションポリシー

建学の精神、教育目標及びディプロマポリシーを理解し、その目標に向かって努力できる人材を求めます。具体的には、以下のような人物を受け入れます。

■求める学生像

- ① 高等学校の教育課程における、国語又は英語に関する基礎学力を持っている人
- ② 自ら率先して学ぶ意欲があり、努力する人
- ③ 他者の考えを聴くことや、自分の考えを述べることができる人
- ④ 自身や他者の美しさに関心を持っている人
- ⑤ 日本や海外の文化に興味があり、物事を幅広い視野から総合的に見つめようとする人
- ⑥ 人と関わることが好きで、相手の笑顔に幸せを感じる人

■求める学生像と入学者選抜方法の関連

本学は、学力を構成する重要な要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）を踏まえた多角的・総合的に評価する入学者選抜を実施します。

（◎：特に強く関連している ○：強く関連している △：関連している）

区分	概要	知識・ 技能	思考力・ 判断力	表現力	主体性	多様性・ 協働性
総合型選抜 （ポテンシャル型）	調査書、エントリーシート、 課題（実技含） プレゼンテーション	△	◎	◎	○	○
総合型選抜 （コミュニケーション型）	調査書、エントリーシート、 課題、口頭試問	△	○	◎	○	◎
総合型選抜 （オンライン型）	調査書、エントリーシート、 課題、口頭試問	◎	◎	○	○	△
学校推薦型選抜	調査書、学校長の推薦書、 活動報告書、小論文 面接	○	◎	○	◎	△
一般選抜	調査書、筆記試験、面接	◎	◎	○	△	△
大学入学共通 テスト利用選抜	調査書、活動報告書、 大学入学共通テスト結果	◎	○	△	○	△
外国人留学生・ 社会人・ 帰国子女特別選抜	自筆履歴書、志願理由書、 活動報告書、面接	△	◎	◎	○	△

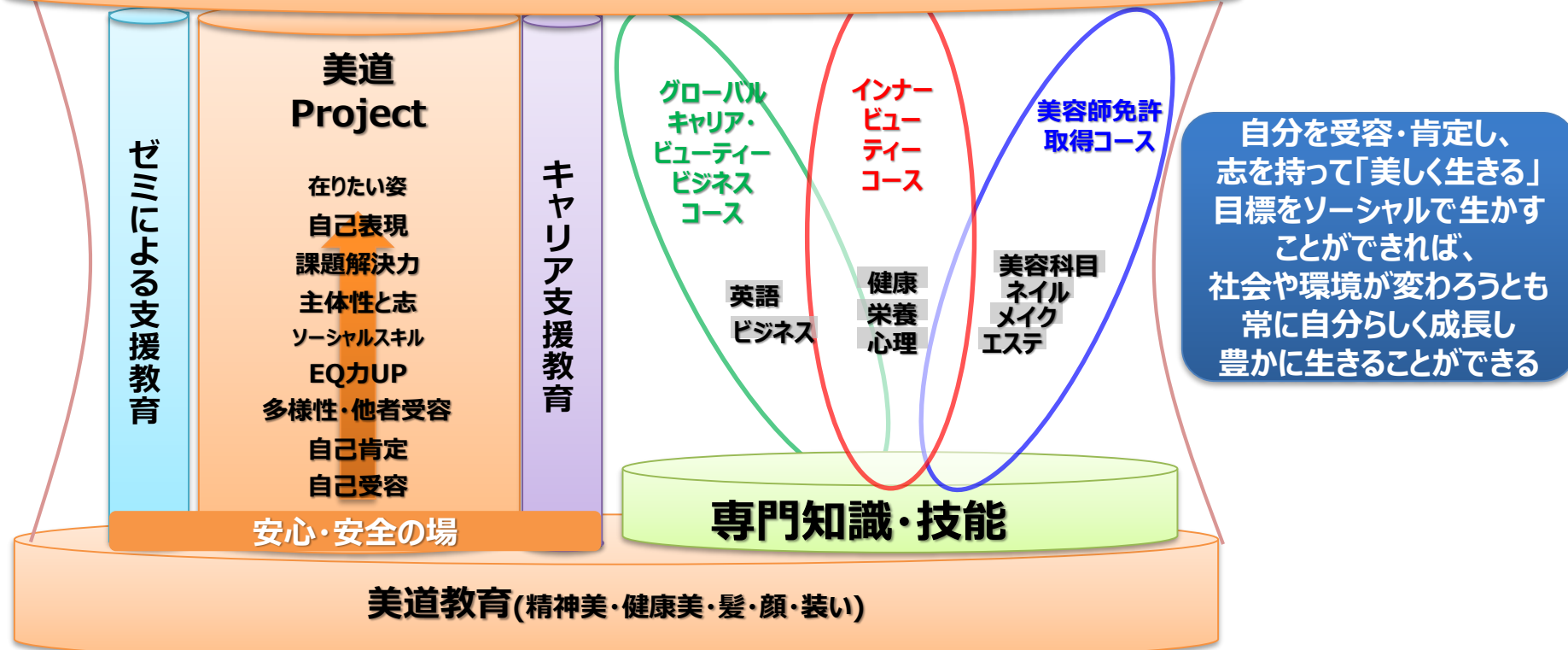
学科改組後の構造図

「美しく生きるために必要な能力を有し、美容を通じ広く国際社会に貢献しうる人材」

「美しい生き方」＝自己実現を目指して自律した生活を送るとともに、利他的で社会に奉仕する振る舞い

- 世界のホテルでおもてなしができる人材
- 観光業で活躍できるホスピタリティの高い人材
- 世界で美容業界で活躍できる人材
- 美しく生きる知識をもつ販売員
- 心・体・美容をトータルに理解した編集者
-
- 心・体・美容をトータルに理解した編集者
- 内面美、外見美をトータルで分かるインストラクター
- 美しく生きる支援をするシニアアドバイザー
-
- トータルビューティが分かる美容師
- 経営が得意で美容室を多店舗に展開できる美容師
- 海外で美容店を展開できる美容師
- 外国人とコミュニケーションできる美容師
- 内面、健康面からアプローチできる美容師

(DP6)美道を基本とし、『知識・技能』、『主体的行動力』、『課題解決能力』、『多様な価値観や考え方を理解し、受け入れる能力』、『日本の伝統文化を理解し、美意識を備えて行動できる能力』を兼ね備え、状況に応じてこれらの能力を単一または複合的に捉え、自分や他者が豊かな人生を送るための考え方を説明し、提案することができる。



美道教育に関して

➤ DP:輩出人材像

- ・ **美しく生きるために必要な能力を有し、美容を通じ広く国際社会に貢献しうる人材**
- ・ 「美しい生き方」= 自己実現を目指して自律した生活を送るとともに、利他的で社会に奉仕する振る舞い

➤ どんなことができている状態か

- **美道を基本とし、『知識・技能』、『主体的行動力』、『課題解決能力』、『多様な価値観や考え方を理解し、受け入れる能力』、『日本の伝統文化を理解し、美意識を備えて行動できる能力』を兼ね備え、状況に応じてこれらの能力を単一または複合的に捉え、自分や他者が豊かな人生を送るための考え方を説明し、提案することができる。**

ゼミ

学生生活支援、学校行事支援、メンタル・モチベーションケア、コーチング的なアプローチで美道等に係る授業で、どんな学びや気づきがあったかゼミで共有し、各自の気づきの時間とサポートを推進する。

科目内容の理解・各学生の状態の共有によって多様な教員が学生をサポートする状態を構築する

美道プロジェクトⅡ

成長の根底に係るパーソナル・スキルの開発とソーシャル・スキルの開発によって、美道の統合的知識・技能から「自分らしい美しい生き方」をみつけ、他者に説明できるようになる

<キーワード>

- ・ 行動、習慣化
- ・ 自己表現力
- ・ 課題解決力
- ・ 私という主体性と志
- ・ ソーシャルスキル(EQ力)
- ・ 多様性・他者受容
- ・ 自己受容・自己肯定
- ・ 安心・安全の場

科目間の教育内容が連動し相乗効果が高まるようなシラバスの設計を行う

キャリア

仕事・就職の観点で、「自分らしく美しく生きる」ためのキャリア形成を構築する

<キーワード>

- ・ 自分を知る
- ・ 社会を知る
- ・ 仕事を知る
- ・ 美しく生きるキャリア形成
- ・ 自分らしいキャリア形成

美道論

「美道」全般に係る知識を学び、お客様に自身の言葉で説明できるようになる

<キーワード>

- ・ 美道5原則
- ・ 自分らしさ
- ・ 美しく生きるとは

科目間の教育内容が連動し相乗効果が高まるようなシラバスの設計を行う

山野インストラクション・スタンダード

テーマ	インストラクションスタンダード	狙い
マインドセット	学生一人ひとりの個性・価値観を尊重し、かけがえのない存在として一人ひとりに関心を持つ。	相手に関心を持つ、他者受容・承認・信頼関係、 学生が主体、学生の可能性を信じる
	教職員は、学生が学びの主体者であると理解する。	
	すべての学生は成長できると信じる。	全学挨拶の励行
	挨拶の重要性を理解したうえで、自ら率先して挨拶をする。	
	学生一人ひとりの変化を見逃さず、必要な支援をする。	全学生支援、意図の理解
	一つひとつの行動に対し、なぜそれが必要か、重要かを必ず伝える。	
	一人ひとりの学生に合わせた方法で成長を支援する。	個別支援、教育の工夫（教員も考える） モチベーションUP
	あらゆる方法を活用した教育の工夫・改善に常にチャレンジし学生の成長を支援する。	
	学生の小さな成功体験を発見し、ほめることで成功を積み重ね、さらに挑戦したくなるよう働きかける。	学生情報共有、学生を成長させるチーム・役割（指導、科目間連携）
	学生を成長させる教職員チームを組成し、チームとして情報共有など協力しながら支援にあたる。	
本学の理念を実現するための授業スタンス	教職員が「美道」を理解し、美しく生きようと努める。	本学理念の浸透・共有、同一方向性と教育行動の一致、学生とともに成長 （建学の精神→教育理念→ビジョン→価値観→行動規範）
	学生の成長と共に、教職員も成長する。	
	学生が学ぶ状態に切り替わるように授業前後で挨拶を活用する。	授業の建付けと進め方
	各科目とDPとの関連をシラバスで示し、オリエンテーションで、DPのどの能力に寄与する科目なのかを説明する	
	毎回の授業で目的と目標およびDPとの関連、整合を説明する（狙いと到達目標）	知識の詰め込みではなくアクティブ・ラーニングを多用 体験・体感を基に気づき、定着させる 承認から信頼が生まれる
	知識を覚えるときに、学生同士で質問し合うようにさせ、自然体で吸収できるようにする。	
	理解を促進するために分かりやすい授業になるよう工夫し、一方通行ではなく学生の能動的な参加を促す。	
	一方通行に説明する場合は短時間（15分を目安）とする。（具体的な例を出す、途中で質問するなど）	
	学生一人ひとりが発言しやすい雰囲気をつくり、多くの学生に発言や意見の発表の場を与える。	リマインド
	学生が発言したら必ず発言そのものを肯定的に受け止め、発表した勇気を褒めた上で、必要な教育を行う。	
評価F B方法	授業開始時に前回の振り返り、終了時には今回の振り返りを必ず入れる。	主体的・自律的に考え、行動させる 気づき 協働 他者受容
	どの授業でも、問いかけ（なぜ？どうしたら？）を入れ、学生が自分の意見を発言できるようにする。	
	発問をした場合、一人ではなく複数の学生から多様な考えが場に出るようにする。	
	授業時間以外での主体的な学修活動を促す授業設計を心がけ、学生の自律的学習を支援する。	
	アセスメントポリシーに則り、学習成果の評価を行う。	
	学習成果の評価は、定量および定性等様々な方法を用いる。	
評価F B方法	授業ごとに設定した目標に対し、小テストや試験で到達度を明らかにする。	適切な評価法 毎回の確認（学習の結果、教育方法の振り返り） PDCAサイクルの循環による授業改善
	評価結果を学生にフィードバックし成長を促す。	
	結果評価、プロセス評価に関する改善に常に取り組む。	
	学生授業評価アンケートの振り返りや評価の高い授業の見学を行い、授業改善に取り組む。	

科目群	授業科目名	担当教員	授業形態	必修	単位	時間	開講期	美容師		インナービューティー			グローバル		履修条件等	カリキュラム・マップ(DPとの関連)					
								美容師BB	グロスタ	栄養	健康	心理	コミュ	BB		凡例 ◎: DP達成のため設定された項目と強い関連性がある (*: より強い関連性がある) ○: DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある					
DP1(知)	DP2(主)	DP3(課)	DP4(多)	DP5(日)	DP6(総)																
美道(必修)	美道論	山野・木村・永松・富田	講義	必	1	30	1前	●	●	●	●	●	●	●	必修	○			○	◎	◎*
	美道プロジェクトⅠA	眞柄 真有奈	演習	必	1	30	1前	●	●	●	●	●	●	●	必修	○	◎		◎*		○
	美道プロジェクトⅠB	池照 佳代	演習	必	1	30	1後	●	●	●	●	●	●	●	必修	○	◎		◎*		○
	美道プロジェクトⅡ	眞柄真有奈・池照佳代	演習	必	2	60	2通年	●	●	●	●	●	●	●	必修		◎	○	◎	○	◎*
	ゼミⅠ	河崎・石川・橋・峯脇・佐藤亮・中根・過足・阿部	演習	必	1	30	1通年	●	●	●	●	●	●	●	必修		◎	○	◎*		○
	ゼミⅡ	河崎・石川・橋・峯脇・佐藤亮・中根・過足・阿部	演習	必	1	30	2通年	●	●	●	●	●	●	●	必修		◎	○	◎*		○
	キャリアデザインⅠ	千葉 博 他	演習	必	1	30	1前	●	●	●	●	●	●	●	必修	○	◎	○	○		
	キャリアデザインⅡ	千葉 博 他	演習	必	1	30	1後	●	●	●	●	●	●	●	必修	○	◎	○	○		
	思考法と課題解決法	鳥羽瀬 建	演習	必	1	30	1前	●	●	●	●	●	●	●	必修		○	◎*	◎		
	美しい思いやり	河崎 峰子	演習	必	1	30	1後	●	●	●	●	●	●	●	必修 (エステ資格)	○	○		○	◎	
	伝承美(着装)Ⅰ	着装チーム	実習	必	2	60	1前	●	●	●	●	●	●	●	必修	○			◎	◎*	
	伝承美(茶道)	河原 薫	演習	必	1	30	2前	●	●	●	●	●	●	●	必修	○			◎	◎*	
	伝承美(華道)	松崎 美穂	演習	必	1	30	2後	●	●	●	●	●	●	●	必修	○			◎	◎*	
	ビューティービジネス(基礎)	新井卓二 (秋葉・星川・山口・名越)	演習	必	1	30	1前	●	●	●	●	●	●	●	必修		○	◎*	◎		
	美齢学ジェロントロジー	宮内康二・及川麻衣子	講義	必	1	30	2後	●	●	●	●	●	●	●	必修	○	○		◎		
美容師法定課目	美容関係法規	内田 麻美	講義	選	1	30	2夏季	●	●	○	○	○	○	○	美容師法定課目	◎		○			
	美と衛生Ⅰ	ヘアチーム	演習	選	1	30	2後	●	●	○	○	○	○	○	美容師法定課目	◎		○			
	美と衛生Ⅱ	相馬 勉	演習	選	1	30	2冬季	●	●	○	○	○	○	○	美容師法定課目	◎		○			
	美容衛生管理論	大西典子・及川麻衣子	講義	選	1	30	1夏季	●	●	○	○	○	○	○	美容師法定課目	◎		○			
	美と健康科学	相馬 勉	講義	選	1	30	2夏季	●	●	○	○	○	○	○	美容師法定課目	◎		○			
	人体の美と科学Ⅰ	柏戸奈苗・森優紀	講義	選	1	30	2前	●	●	●	●	●	○	○	美容師法定課目・ インナー・(エステ資格)	◎		○			
	人体の美と科学Ⅱ	柏戸奈苗・大西典子	講義	選	1	30	2後	●	●	●	●	●	○	○	美容師法定課目・ インナー・(エステ資格)	◎		○			
	香粧品化学	橋 友理香	講義	選	1	30	1後	●	●	●	●	●	○	○	美容師法定課目・ インナー・(エステ資格)	◎		○			
	香粧品研究	橋 友理香	講義	選	1	30	2夏季	●	●	○	○	○	○	○	美容師法定課目	◎		○			
	美容芸術文化史	富田知子・吉川奈菜子	講義	選	1	30	1夏季	●	●	○	○	○	○	○	美容師法定課目	○			◎	○	
	ファッション文化史	青木 和子	講義	選	1	30	2後	●	●	○	○	○	○	○	美容師法定課目	○			◎	○	
	美容デザイン論Ⅰ	ヘアチーム	講義	選	1	30	1前	●	●	×	×	×	×	×	美容師法定課目	◎		○			
	美容デザイン論Ⅱ	富田 知子	講義	選	1	30	1前	●	●	×	×	×	×	×	美容師法定課目	◎		○			
	美容デザイン論Ⅲ	ヘアチーム	講義	選	1	30	1後	●	●	×	×	×	×	×	美容師法定課目	◎		○			
	美容デザイン論Ⅳ	ヘアチーム	講義	選	1	30	2前	●	●	×	×	×	×	×	美容師法定課目	◎		○			
	美容デザイン論Ⅴ	ヘアチーム	講義	選	1	30	2後	●	●	×	×	×	×	×	美容師法定課目	◎		○			
	美容と経営	佐藤 亮太	講義	選	1	30	2夏季	●	●	○	○	○	○	○	美容師法定課目	◎		○			
	美容デザイン実習Ⅰ	ヘアチーム	実習	選	3	90	1前	●	●	×	×	×	×	×	美容師法定課目	◎		○	○		
	美容デザイン実習Ⅱ	ヘアチーム	実習	選	2	60	1前	●	●	×	×	×	×	×	美容師法定課目	◎		○	○		
	美容デザイン実習Ⅲ	ヘアチーム	実習	選	3	90	1夏季	●	●	×	×	×	×	×	美容師法定課目	◎		○	○		
	美容デザイン実習Ⅳ	ヘアチーム	実習	選	2	60	1後	●	●	×	×	×	×	×	美容師法定課目	◎		○	○		
	美容デザイン実習Ⅴ	ヘアチーム	実習	選	2	60	1後	●	●	×	×	×	×	×	美容師法定課目	◎		○	○		
	美容デザイン実習Ⅵ	ヘアチーム	実習	選	3	90	2前	●	●	×	×	×	×	×	美容師法定課目	○		◎	○		
	美容デザイン実習Ⅶ	ヘアチーム	実習	選	3	90	2夏季	●	●	×	×	×	×	×	美容師法定課目	○		◎	○		
	美容デザイン実習Ⅷ	ヘアチーム	実習	選	3	90	2後	●	●	×	×	×	×	×	美容師法定課目	○		◎	○		
	美容デザイン実習Ⅸ	ヘアチーム	実習	選	2	60	2後	●	●	×	×	×	×	×	美容師法定課目	○		◎	○		
	伝承美(着装)Ⅱ	着装チーム	実習	選	2	60	1後	●	●	○	○	○	○	○	美容師法定課目 先修条件 着装Ⅰ	○			◎	◎*	
	メイクアップⅠ	メイクチーム	実習	選	2	60	1前	●	●	○	○	○	○	○	美容師法定課目	◎		○	○		
	ネイル技術Ⅰ	ネイルチーム	実習	選	1	30	1後	●	●	○	○	○	○	○	美容師法定課目	◎		○	○		
グロコミュ	Applied General and Business EnglishⅠ	ELEC	演習	選	2	60	1前	○	●	○	○	○	●	●		◎	○		○		
	Aesthetics EnglishⅠ	ELEC	演習	選	1	30	1前	○	●	○	○	○	●	●		◎	○		○		
	Applied General and Business EnglishⅡ	ELEC	演習	選	3	90	1後	○	○	○	○	○	●	○	先修条件等なし	◎	○		○		
	Aesthetics EnglishⅡ	ELEC	演習	選	2	60	1後	○	○	○	○	○	●	○	先修条件等なし	◎	○		○		
	Applied General and Business EnglishⅢ	ELEC	演習	選	2	60	2前	○	○	○	○	○	●	○	先修条件等なし	◎	○		○		
	Aesthetics EnglishⅢ	ELEC	演習	選	2	60	2前	○	○	○	○	○	●	○	先修条件等なし	◎	○		○		
	Applied General and Business EnglishⅣ	ELEC	演習	選	2	60	2後	○	○	○	○	○	●	○	先修条件等なし	◎	○		○		
	Aesthetics EnglishⅣ	ELEC	演習	選	2	60	2後	○	○	○	○	○	●	○	先修条件等なし	◎	○		○		○
グロ	グローバルスタイリストイングリッシュⅠ	パーカー	演習	選	2	60	1通年	○	●	×	×	×	×	×		◎	○		○	○	
	グローバルスタイリストイングリッシュⅡ	パーカー	演習	選	2	60	2通年	○	●	×	×	×	×	×		◎	○		○	○	

【添付3-4】カリキュラム・マップ 2021

入 タ	グローバルスタイリスト演習Ⅰ	バーカー	演習	選	1	30	2前	○	●	×	×	×	×	×				○	◎	○		
	グローバルスタイリスト演習Ⅱ	小野田 光伸	演習	選	1	30	2後	○	●	×	×	×	×	×				○	◎	○	○	
美B	美容師のためのビューティービジネス(基礎)	秋葉 湧・星川佳輝	演習	選	1	30	1後	●	○	○	○	○	○	○			○	◎*	◎		○	
美B	美容師のためのビューティービジネス(応用)	秋葉 湧・星川佳輝	演習	選	1	30	2前	●	○	○	○	○	○	○			○	◎*	◎		○	
BB	ビューティービジネス(応用)	新井 卓二	演習	選	2	60	1後・2前	○	○	○	○	○	○	●			○	◎*	◎		○	
共 通 ビ ジ ネ ス 科 目	知って得するパソコン術	加勢 翼	演習	選	1	30	1前	◎	○	○	○	○	○	◎			◎	○	○			
	頭が良くなるニュースの見方	橋高 聡	講義	選	1	30	1前	◎	○	○	○	○	○	◎			○	○	○	◎		
	今のうちに学ぼうビジネス文章	橋高 聡	演習	選	1	30	1後	◎	○	○	○	○	○	◎			◎	○	○			
	人に伝えたいくなる映画の世界	富山 省吾	講義	選	1	30	1後	◎	○	○	○	○	○	◎				○	○	◎		
	美しいコミュニケーション	名越 涼	演習	選	1	30	2前	◎	○	○	○	○	○	◎				○	○	◎	○	
	美しいサービス	河崎 峰子	演習	選	1	30	2前	◎	○	○	○	○	○	◎			○		○	◎*	◎	
	絵本と童謡の世界	織江 りょう	演習	選	1	30	2後	◎	○	○	○	○	○	◎				○	◎	○		
	ミライを楽しむための思考トレーニング	鳥羽瀬 建	演習	選	1	30	1後	◎	○	○	○	○	○	◎				◎	◎*	○		○
	自分が輝く自己肯定感	下高原 由記	演習	選	1	30	2前	◎	○	○	○	○	○	◎				◎	○	◎*	○	
	役者に学ぶ感情表現とクリエイターに学ぶ動画制作	藤井咲有里・ピタコ・秋山広光	演習	選	1	30	2後	◎	○	○	○	○	○	◎				◎*	○	◎	○	
	クリエイターに学ぶ広告・SNS	酒井文也・横地祐人	演習	選	1	30	2後	◎	○	○	○	○	○	◎				○	◎*	◎		
	産官学連携講座	新井 卓二	演習	選	1	30	2後	◎	○	○	○	○	○	◎				○	◎	○		
世界一周しながら考えるCOOL JAPAN戦略	長谷川 浩史	演習	選	1	30	2前	◎	○	○	○	○	○	◎				○	◎	◎*	◎	○	
イ ン ナ ー ビ ュー テ ィ ー	プライマリー栄養学	永松 俊哉	講義	選	1	30	1前	○	○	●	●	●	○	○			◎	○	○			
	食品栄養学	望月 理恵子	講義	選	1	30	2前	○	○	●	●	●	○	○			◎	○	○			
	生命活動概論	大西 典子	講義	選	1	30	2後	○	○	●	●	●	○	○			◎	○	○			
	ヘルスケア概論	森 優紀	講義	選	1	30	1前	○	○	●	●	●	○	○	エステ資格 (美容師は衛生管理)		◎	○	○			
	生体学	永松 俊哉	講義	選	1	30	2前	○	○	●	●	●	○	○			◎	○	○			
	パートナーシップ心理学	坂部 崇政	講義	選	1	30	1前	○	○	●	●	●	○	○			◎	○		○		○
	色彩心理学	南 涼子	講義	選	1	30	1後	○	○	●	●	●	○	○			◎	○	○	○		
	ウェルビーイング心理学	坂部 崇政	講義	選	1	30	2後	○	○	●	●	●	○	○			◎	○	○	○		
	カウンセリング・コンサルティング概論	森 優紀	講義	選	1	30	2後	○	○	●	●	●	○	○	エステ資格		◎		○	○		
	ビューティー栄養学	望月 理恵子	講義	選	1	30	1前	○	○	◎	○	○	○	○			◎	○	○	○		
	体重コントロール・ボディデザイン栄養学	永松 俊哉	講義	選	1	30	1後	○	○	◎	○	○	○	○	エステ資格		◎	○	○			
	ライフステージ栄養学	望月 理恵子	講義	選	1	30	2後	○	○	◎	○	○	○	○			◎	○		○		○
	アクティブライフデザイン	森 優紀	講義	選	1	30	1後	○	○	○	◎	○	○	○			◎	○	○			
	アクティブヘルスプロモーション	坂部 崇政	講義	選	1	30	2前	○	○	○	◎	○	○	○	エステ資格		◎	○	○	○		
	アクティブレスト&リフレッシュ	永松 俊哉	講義	選	1	30	2後	○	○	○	◎	○	○	○			◎	○	○			
	ファッショントレンド心理学	大野 淑子	講義	選	1	30	1前	○	○	○	○	◎	○	○			◎	○	○	○		
	ダイバーシティ心理学	坂部 崇政	講義	選	1	30	1後	○	○	○	○	◎	○	○			◎		○	◎*		
	好きをひも解く心理学	堀越 詩帆	講義	選	1	30	2前	○	○	○	○	◎	○	○			◎	○	○	◎*		
	選 択 科 目	ヨガ	山口 真紀	演習	選	1	30	1後	○	○	○	○	○	○	○			◎	○			
セルフプロモーション		ヘア・メイク・ネイル	実習	選	1	30	1後	○	○	○	○	○	○	○				◎	○		○	
メイクアップⅡ		メイクチーム	実習	選	2	60	1後	○	○	○	○	○	○	○	先修条件 メイクⅠ		○		◎	○		
ネイル技術Ⅱ		ネイルチーム	実習	選	1	30	2前	○	○	○	○	○	○	○	先修条件 ネイルⅠ		○		◎	○		
美容心理学		五十嵐 靖博	講義	選	1	30	2前	○	○	○	○	○	○	○			◎	○	○	○		
アート&デザイン		栗本佳典・林美喜	演習	選	1	30	1後	○	○	○	○	○	○	○			◎		○	○		
色彩学		栗本 佳典	演習	選	1	30	2前	○	○	○	○	○	○	○			◎		○	○		
社会を知る		千葉 博	演習	選	1	30	1集中	○	○	○	○	○	○	○	《集中講義》			◎	○	◎*		○
海外研修(アメリカ)		バーカー	演習	選	1	30	1集中	○	○	○	○	○	○	○	《集中講義》		◎*	◎	○	○		
海外研修(ヨーロッパ)		ティミー西村	演習	選	1	30	1集中	○	○	○	○	○	○	○	《集中講義》			○		◎	○	
エ ス テ 資 格	フェイシャルエステティック	エステチーム	実習	選	2	60	1後	○	○	○	○	○	○	○	エステ資格 フェイシャル資格		◎		○	○		
	エステティックⅠ	エステチーム	実習	選	2	60	2前	○	○	○	○	○	○	○	エステ資格 先修条件 フェイシャル		◎		○	○		
	エステティックⅡ	エステチーム	実習	選	2	60	2後	○	○	○	○	○	○	○	エステ資格 先修条件 フェイシャル		○		◎	○		
	エステティック理論	エステチーム	講義	選	1	30	2後	○	○	○	○	○	○	○	エステ資格 先週条件 フェイシャル		◎		○	○		
資 格 系	総合ブライダル学	佐藤美奈子・青木和子	講義	選	1	30	2前	○	○	○	○	○	○	○			○		○	◎*	◎	
	チャイルドケア演習	河崎 峰子	演習	選	1	30	2前	○	○	○	○	○	○	○			○	○	◎	○		
	美齢学演習	大西 典子	演習	選	1	30	2前	○	○	○	○	○	○	○				○	◎	◎*		
	基礎介護演習	大西典子・大野淑子	演習	選	4	130	2集中	○	○	○	○	○	○	○	《集中講義》		◎		◎*	○		
留 学 生 科 目	グローバルコミュニケーション(日本語)Ⅰ	日本語チーム	演習	選	1	30	1前	○	○	○	○	○	○	○	留学生のみ		○	○		○	◎	
	グローバルコミュニケーション(日本語)Ⅱ	日本語チーム	演習	選	1	30	1後	○	○	○	○	○	○	○	留学生のみ		○	○		○	◎	

※履修等に関する注記事項

注1: 卒業要件＝2年間で62単位以上を修得 （※美容師免許受験資格取得には、指定された科目を含めて67単位以上修得する必要があります。）

注2:「コース設定履修条件」欄の各マークは以下を示す。

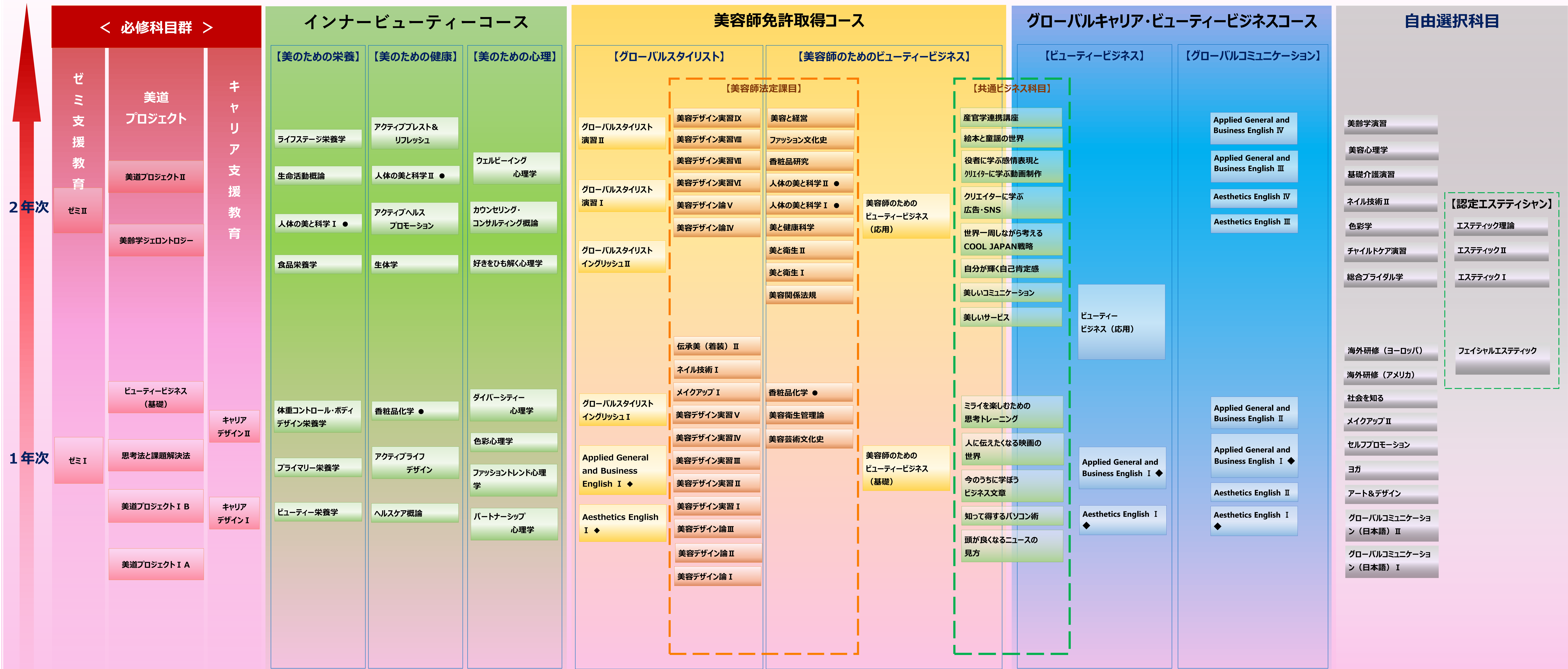
- ＝必修又は、コース設定科目
- ◎＝コース設定の選択科目（◎の科目内から以下単位分の科目を選択）
- ＝選択科目（任意に選択）
- ×＝履修者制限のある科目
- 美容師のためのビューティビジネス＝7単位以上選択
- ビューティービジネス＝11単位以上選択
- インナービューティー＝4単位以上

注3:履修コースは、『大学推奨の「履修モデル」』です。 履修コースの科目を主として、他分野の科目を含め自由に履修を組み立ててください。

注4:エステ資格取得には、履修条件等欄に「エステ資格」の記載のある科目の修得が必要となります。

注5:別途履修料が必要な科目があります。

（DP6）美道を基本とし、『知識・技能』『主体的行動力』『課題解決能力』『多様な価値観や考え方を理解し、受け入れる能力』『日本の伝統文化を理解し、美意識を備えて行動できる能力』を兼ね備え、状況に応じてこれらの能力を単一または複合的に捉え、自分や他者が豊かな人生を送るための考えを説明し、提案することができる。



美道教育《美道五大原則（髪・顔・装い・精神美・健康美）》

美道論

美しい思いやり

伝承美（着装）

伝承美（茶道）

伝承美（華道）

- 同科目
- ◆ 同科目

受験番号

※記入しないでください

2022年 山野美容芸術短期大学 入学志願票

※入学願書の記入例を参考に、もれのないようボールペンで記入してください。

フリガナ			性 別	写真貼付 ①上半身脱帽 ②最近3ヶ月以内撮影 ③縦4cm×横3cm ④全面貼付
志願者氏名			男・女 その他()	
生年月日	(西暦)	年 月 日生 (満 歳)		
現住所	〒 -			
	自宅TEL		携帯番号	
出身高校	立 高等学校 科 (全日制・定時制・通信制)			
	卒業年月日(西暦) 年 月 卒業・卒業見込			
	高等学校卒業程度認定試験の場合(西暦) 年 月 合格・合格見込み			
志望コース	美容師免許取得コース インナービューティーコース グローバルキャリア・ビューティ・ビジネスコース			
入学試験 区分	総合型選抜		A日程 B日程 C日程 D日程 E日程	
	学校推薦型選抜(一般公募 指定校)		A日程 B日程 (学校受験・オンライン受験)	
	一般選抜		A日程 B日程	
	大学入学共通テスト利用型選抜		前期 後期	
	特別選抜(社会人・帰国子女・外国人留学生A B)		1期 2期 3期 4期 (学校受験・オンライン受験)	
一般選抜受験者のみ	希望試験	国語 英語		
特別・特典対象者のみ	卒業生氏名	(続柄)	卒業学科	学科・専攻 年(卒業/見込)

自筆履歴書

〈高等学校卒業見込み者以外は記入（外国人留学生は別様式）〉

フリガナ		性 別	生年月日
氏 名		男 ・ 女 その他()	年 月 日生
住 所	〒 -		
年 月	学 歴 ・ 職 歴		
年 月			
年 月			
年 月			
年 月			
年 月			
年 月			
年 月			
年 月			
年 月			

※学歴は高校卒業から記入してください。年号は西暦で記入してください。